EL «ARGENTIN DJIJO»
PERIODICO SEMANAL EN JAPONES
Redacción: USPALLATA 981 U.T. 23 B.Orden 7051

AÑO VIII Nº. 345

1931

昭和六年一月元日

亜尔然丁時報

新年號

1931年

NUMERO EXTRAORDINARIO
1º DE ENERO DE 1931

賀正

輝きに満ちた
昭和六年は
明けました

本年も相変らず
倍旧の御愛顧を
偏に願上げます

御歸朝のお方も、
御家族御呼寄のお方も、
どうぞ、
大阪商船の
優秀客船で。

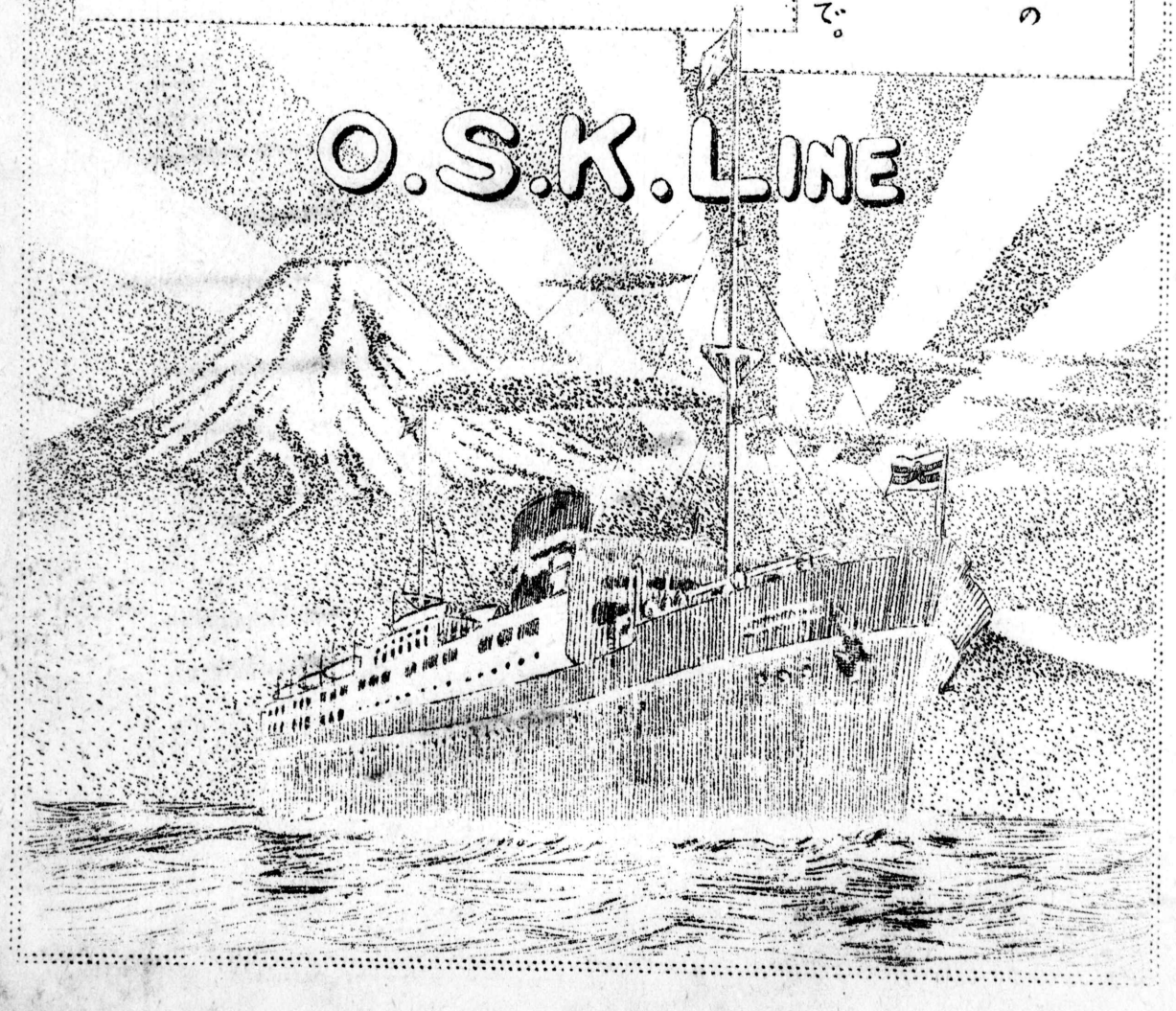
社船御乘船の一、二、三等御客への御優待

神戸より船客目的地の最寄りの吾社内地航路寄港地迄の乘継乘船切符。
（一等客へは乘継船の一等、三等客へは二等）を無賃で御贈呈申します。但し沖縄は遠隔の地なる故、普通運賃の半分だけを頂戴致します。
尚詳細に就いては左記迄御問合せ下さい。

大阪商船株式會社

25 DE MAYO 431, B/A.
U.T. (34) Retiro 2825

O.S.K. LINE



謹賀新年

S. YAMADA Y CIA

IMPORTADORES

山田商會

MORENO 2037

市内モレーノ街二〇三七

U.T.
47 CUYO 4354
" " 4405

BUENOS AIRES

謹賀新年

CAFE TOKIO
MARCA REGISTRADA
TOKIO

東京珈琲店

CAFE TOKIO
DE
Haihara Hnos.

貝原兄弟

FABRICA Y ESCRITORIO
HUMBERTO 1º 2013
U.T. 2243 B. ORDEN

SUCURSAL "A"
LAVALLE 1388
U.T. MAYO 6354

SUCURSAL "B"
Bmé MITRE 349
U.T. AVENIDA 0153

S.TSUJI

新謹賀

昭和六年
正月元旦

辻商店

BALCARCE 682
U.T. 33 Av. 5744

謹賀新年



正月　元旦

FOTOGRAFIA KASAY HNOS

寫眞館

葛西春峰

CALLAO 1451 ~ B.A. ~ U.T. 4563 JUNCAL

謹賀新年

MATSUURA TRADING CO. LTD.

IMPORTADORES
ARTICULOS GENERALES DEL JAPON

LAVALLE 341 - ESCRIT. 107 - U.T. 31 RETIRO 0985

松浦貿易商會

謹賀新年

FUJISAKI Y CIA

IMPORTADORES Y EXPORTADORES

SARMIENTO 459, P. 3º ESCRIT. 28~29
U.T. 31 RETIRO 4459

藤崎商會

29 SHIOCHO ICHICHOME
YOTSUYA ~ TOKIO

46 SUMIYOSHICHO SANCHOME
YOKOHAMA ~ JAPON

RIO DE JANEIRO
SAN PABLO
PERNAMBUCO
~ BRASIL ~

賀正

横濱加藤合名會社
代理店

原商店

輸入部
ベルグラーノ街一四七〇
U・T・マーヨ 二四三八
U・T・リバダビア 六六一四

小賣部
バルトロメ・ミトレ街一〇三〇
U・T・マーヨ 七〇七二

EL "TOKIO"

GRAN TINTORERIA Y TALLER DE LAVADO Y PLANCHADO

DE ADOLFO K. OTSUBO

賀正

正月元旦

大坪喜義

CASA MATRIZ
RIVADAVIA 5202
U.T. 60 CABALLITO 4738

SUCURSAL
ACOYTE 60
U.T. 60 CABALLITO 4719

BUENOS AIRES

FELIZ AÑO NUEVO

1931 1931

BILLARES

"BRUNSWICK"

Material preferido en las casas de primera categoria

VENTA A PLAZOS

SIN RECARGO DE PRECIOS

CANGALLO 1818 ~ B.s AIRES ~ U.T. 47 CUYO 3018-9

CAFE TOKIO

M.K.MIHURA & Cia

CASA MATRIZ MERCEDES F.C.O.
(U.T. 191)

SUCURSAL Nº1 JUNIN F.C.P.
(U.T. 198)

SUCURSAL Nº2 LUJAN F.C.O.
(U.T. 100)

SUCURSAL Nº3 PERGAMINO F.C.C.A.
(U.T. 150)

謹賀新年

昭和六年正月元旦

本店 メルセーデス市 (電話 一九〇番)
支店 フニン市 (電話 一九八番)
支店 ペルガミーノ市 (電話 一五一番)
支店 ルハン市 (電話 一〇〇番)

カフェー東京

金子良平
三浦興吉
水野武義
管野幾八
宍戸庄五郎

謹賀新年

TINTORERIA "SATUMA"

(CASA MATRIZ)

DE M. T. TURU & Hno

CALLAO 1325

U.T. 41. PLAZA 2097

謹賀新年

TINTORERIA

"EL MACON"

(SUCURSAL)

SANTA FE 2758

U.T. 41 PLAZA 3934

B.s AIRES

水流武一

仝庄吉

ALMACEN

"NUHISAKA"

謹賀新年

昭和六年正月元旦

日用食料品

味噌醤油漬物製造販賣

西坂商店

市内アウストラリア街二〇二

電話 バラッカス 二九二五

CAFE JAPONES

SANTIAGO DEL ESTERO, F.C.C.A.

CASA CENTRAL: AVELLANEDA E INDEPENDENCIA

SUCURSAL EN SANTIAGO: AVELLANEDA Y 24 de SETIEMBRE

SUC. EN TUCUMAN: LAS HERAS 667

謹賀新年

昭和六年正月元旦

サンティアゴ・デル・エステーロ市

トクマン市

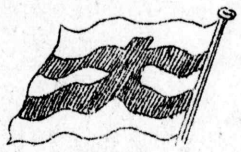
カフエ・パボネス

内野清

新澤金兵衛

石原正一

謹賀新年



船舶御用商

大阪商船
會社指定 三等乘船切符仲次所

森川塩澤商店

Paseo Colon 470
U.T. Avenida 4171

大阪商船會社船へ御乘船、御出迎へ入港出帆等に就て御用事有之節は、御遠慮なく當店へ御問合せ下さい。三等乘船切符購入、其他一切の手續きも當店に於て親切迅速に御取扱ひ致します。

謹賀新年

正月元旦

土井兄弟

TINTORERIA BELGRANO
DE DOY Hnos

RIVADAVIA 11336 - U.T. 64 Liniers 619

SADAO HATTORI

IMPORTADOR

ESPECIALIDAD EN ARTICULOS DE

CEPILLERIA

FELIZ AÑO NUEVO

~1931~

賀正

正月元旦

服部定雄

市内リニエールス街 六四九

電話 ロリア・三二一八

LINIERS 649 - Bs. As. - U.T. 45 LORIA 3218

亜不然丁時報
昭和六年一月一日
亜不然丁時報
第三百四十五号

昭和六年を迎ふ

昭和六年の新春を迎えて清新の氣天地に満つるを覚え前途益々希望に輝くものがある。吾人は悠久に續いて須臾も止まざる時の流れを劃して新年と呼ぶ。これあるが故に人生は歳々年々若さを回復し新たなる希望を抱いて新生を展開し得るものであつて新年の價値は此処に在るのである。古人が「一日の計は朝にあり一年の計は元旦之を定む」と訓えた所以も亦実に此処に存するのである。故に年頭に当り「内に省みて我れ未だ足らず」との観念を起し更に向上の一路に向つて精進するならば贏弱より強健に怠惰より勤勉に粗暴より沈着に寡知より多識に然して不徹より有徹に進み得て練磨したる「新らしき我れ」を作ること決して不可能ではない。

而して新年が更生の轉機である国民が安逸の生活を排し軽兆浮薄の風を斥け質実剛健の気風を養い進んで時難に當るの勇猛心を振い起すならば我国現下の難局を打開することも敢て難事ではないと思惟するものである。

我国は現在経済的に非常なる難局に直面して居り大正九年以来拾年に亘る不況より未だ脱出することを能はざるのみならず寧ろ益々深刻の度を加へつゝある。加ふるに人口の増加は食糧その他の物資の欠乏を来たし国民生活に非常なる脅威を感ぜしめつゝある。この物質的欠乏は国民の精神上にも亦少からざる影響を及ぼし国民の思想は稍もすればその中正を失はんとしてゐる。

此等の難局を如何にして打開せんとするか？一に国民の覚醒と奮起を待つより外はない。

日本国民は建国以来幾多の国難に直面したが常に偉大ふる精神力を発揚し盤根錯節を切り開いて今日の盛運を築いたのであるが昭和の経済危機に際しても同様である。

国民が安逸の生活を排し軽兆浮薄の風を斥け質実剛健の気風を養い進んで時難に當るの勇猛心を振い起すならば我国現下の難局を打開することも敢て難事ではないと思惟するものである。

翻つて亜国に在住する同胞五千の現状如何といふに多年奮闘の結果各方面に於て著しき発展遂げつゝあるは洵に慶賀に堪えざる次第である。特に力強く感ぜらるゝことは昨年九月六日の革命勃発後亜国の経済界は一段の変動を来たせるにも不拘敢て狼狽の体なく相当の余裕を示してゐるのである。然し乍ら萬一小成に安んじ現状維持にのみ固執して将来の発展策を講ぜざれば遂には活気を失ひ停滞萎縮に陥るの恐れがある。宜しく海外発展の第一線に在るを自覚し勇躍更に進一歩の工夫を致し亜国経済生活に於て堅固として抜く可からざるの地歩獲得に努力すべきである。

歳茲に改まりて一年の計を樹つるの時吾人は同胞諸賢の福祉と健闘とを祈つて止まないものである。

(イ)

目次

昭和六年を迎ふ　一頁
年頭に際して　二頁
新春雑筆　三頁
不安相の一九三一年　四頁
ティエラ・デル・フエゴに就て　五頁
敬愛する菜君に呈するの書　六頁
譯詩　七頁
過ぎ行く歳月　八頁
逸まつた勘平　十一頁
聖誕祭小景　十五頁
漫然と　十六頁
彼女の最后　十七頁
或る夫婦　廿頁
魚釣る人　廿一頁
新年笑　廿三頁
或る殺人記　廿四頁
雑報　廿八頁

年頭に際して

帝国領事　高岡禎一郎

新年は我々人生に於ける甚だ有意義な人為的区劃期で或は旧年の事績を顧みて過去を偲び、或は新年を迎へて将来をトするのであるが、殊に海外に在る我々は異つた環境にある関係上、祖国の年末年始の気分を遥かに想起して轉々感慨に堪えぬものがある。

当地の如く四季の変動が祖国と異る土地柄にあつては、暑い年末年始を逆迎するのも一種の興味深い現象で、如何に遠々生れ故郷を離れ来つたかを今更感ずると共に、又如何に世界の各地が時間及び空間的に接近しつゝあるかを知るのである。

数千哩の異郷をも遠しとせず海外発展の希望を抱いてどしどし活動すべき現代である以上我々は新年に当つて新しい覚悟を以て将来の対策を考究する必要があらう。

今や亜国に在住する我々同胞は将に五千に垂んとしてゐる。我々の活動範囲は決して限局せらるべきでない、已れの最も適する方面に向つて発展するのが原則である。

併し下ら自己の立場のみならず大局から観て時宜に依り自己の方策を指導し、適應することも肝要である。

又旧の儘のやり方のみを繰り返へし、時代の変化要求を達観しない時は時代遅れとなるを免れない。新年は新旧を比較研究して今後の対策決定には最も適当した時期である。

昨年成功したやり方が今年又成功するものとは限らない。今迄繁昌した職業が何時迄も景気よいとは謂へない。「カフエー」業にしても洗濯業にしても余り多すぎると同志打ちとなり、共倒れとなることもあらう。十年一日の如く同じやり方のみ繰り返へしては、顧客も厭気を来し、新規を求めて他に移るかも知れない。

兎に角不断の注意と努力を以て顧客の要求の変化を見定めて時代に應じ進歩的方針を以て対應する必要があらう。

更に地方的仕事としては「ミシオネス」の農業、「チヤコ」の棉作、「メンドサ」の果樹業等我々同胞の発展は種々多様である。

又武市近傍の農牧業等著しい例である。

就中興味を感ずるのは市内外の蔬菜園藝、花荐業の将来である。今迄も此方面に於ける活動は継續されて来たのであるが、将来は一層目覚しい発展の余地がないではなからうか。

之は私が北米加州に於ける我々同胞の発展を目撃して実際得た確信である。冀くは先輩諸君の経験并に研究を拝聴して此方面の有望性を調査して見たい願望である。

幸に昨年末、二ケ年に亘り空席であつた拓務省勧業部嘱託が任命せられ、内田千尋氏が其職に当られることになつたのは我々同胞の最も欣幸とし、力強く感ずる次第である。

内田氏は多年の経験と学識を以て一般農業は勿論、就中蔬菜園藝花荐業に対する造詣を以て産業発展の為め有効なる指導啓発をして下さること、信ずる。

世界的一般不景気の為め多少打撃のあつた各種職業も新しき経営法及び対策を以てすれば之を緩和し、有利に導くこと必ずしも難事でなからう。

新年に際し我々同胞の各方面活動発展の有望性を信じ其の多幸を祈るものである。

御題　社頭の雪

本間鉄雄謹詠

とよ年のしるしの御雪ふりしきり
社頭の鳥色ま白なり
ふりしきる雪の中でも千代々々と
社頭の雀御代をほぐかな
初日影匂ふ方へと尋ね来て
宮居にかゝる淡雪を見る

謹賀新年
一月元旦
山崎次郎

謹賀新年
一月元旦
高岡禎一郎

謹賀新年
一月元旦
下野一霍

謹賀新年
一月元旦
服部元忠

新春雜筆

大阪商船株式會社
ブエノス・アイレス支店長　家坂喜

縁起直しに新春早々お安出度い事柄でも書かうと考へたが業界少しも春めかず、たゞ日本からは不景気もいよ〳〵底入れをした模様だから景気も寸進ながら癒ゆるであらうといふ様ふニュースがある丈けで前途はまだ〳〵遼遠であるらしい。甚だ不景気千萬ふ年頭感ではあるが一九三一年も亦遅疑や危惧を禁物として多事多難を覚悟の上で寄せ来る惨風非雨に向つて邁進するより外に途はふいと考へられる。

金解禁で初まつた一九三〇年の祖国済界は世界的不況襲来殊の外酷敷く思ひがけぬ事変まで手傳つて覚悟以上の不景気を現出したのである。二億七千万円の正貨流出には驚かぬ政府も予想以上の惨状には大いに緊張して内部的には財政経済の建直し、緊縮政策、産業合理化、能率増進を高唱し「此不景気は日本だけではない世界的の不況だ、金解禁から合理化だ、緊張して合理的整理整頓経営により官民協力勇敢に突進しやう」と指導し、外的にはヘーグ第二次賠償会議、ロンドン軍縮会議、ジュネブ関税休戦会議――自由通商主義――等々の会議に会議を重ね之亦監視善導して受れてるが漫性化した不振不況の域は断然脱しておらぬ現状である。

民間では印綿布関税引上、銀價暴落、アメリカ不況大影響等々引續く惨報で焦燥煩悶し、保守、日和見、漸進、急進等々の意見が入り乱れ、対策に対策を重ね「不景気打破と産業、農村合理化」「無駄排除、共喰、重複整理」「糊塗彌縫策排除」等々と盛り沢山ふ起死回生案をねり、一方では操短協定、関税、金融制度改善、副業奨励、消費経済合理化、輸出促進等々の実際問題を捉へて幾回の声明、決議を重ねておる。

然しながら業界凡て「萎縮不振」生産過剰の大波に逆ふべくもなく紡績、製紙、船舶、製粉、セメント、肥料、電燈、絹綿原布、生糸、砂糖、炭、銅、鉱業等一つとして生気なく、整理断行、無配当といふ一種の流行的現象を呈するに立至つた訳である。

商工業の不況深刻は前述通りだが、米穀多收穫で米價暴落、一升十六銭、農村疲弊又一入、巻煙草より米安く、物々交換行はれ遂に草を食むに至れる処あり、年末モラトリアム施行、租税免除等を願出た農村ありとさへ傳へられる現状である。

失業者漸増、就職難等々の為め不景気を呪ふ声、国内に満ちてる矢先きに政友会は「不景気失業対策」「国民負擔の軽減」「行政財政整理」等々を叫んで現内閣倒壊を計画してるに対し政府党は世界的不況は人為の如何ともすべき事に非ず「此処が辛棒の仕処だ」「萬事建直しだ」官民協力が刻下の急務なりと應戰してる様に窺はれる。

不景気の生むだ流行の一つに井上準之助氏対武藤山治氏一騎打論戰といふ續きものがある。一九三〇年中無休に論戰してるが、今年も續く事であらう。加之山本条太郎氏も「経済国策の提唱」といふ一書をものして現政府の経済政策に喰つてかゝつておる。所謂明論卓論も多々あり視聴を聳動させる様ふ議論もある様だが、言ひよくして行ひがたき点、咀嚼翫味するに骨が折れる様ふ処もある。其他最近の問題として金輸再禁新平價打切説が矢釜敷くなりつゝあるが、之れが年頭の日本済界を賑はす手初めであらうと思ふ。

此様ふ事を書けばいくらでも際限が無いが、徹頭徹尾不景気話しで持ち切る許りである。たゞ一九三〇年中に多量生産、賣行良好、大儲けをしたと傳へらるゝものは、日本で大流行の「アッパッパー」だけであつたのである。服装合理化の珍現象、丸まげで下駄ばきの「アッパッパー」姿、安くて簡單で便利な流行品、不景気の生むだ日本の特産品？　祖国の景気もいつまでも此儘推移するものではない、いつかは春めいて来る時もある。年改まれば自然人気も一新する、吾人は春景気を大いに期待し鶴首するものである。

謹賀新年
一月元旦
家坂喜

謹賀新年
一月元旦
瀧波文平

謹賀新年
一月元旦
瀧波文夫

賀正
坪田静仁

賀正
吉橋好太郎

賀正
宮崎八郎

賀正
濱野宣直

謹賀新年

昭和六年一月一日

大垣俊雄	浅野政吉	仲間平助	廣瀬寛治	上桶甚太郎	本田儀平治
福田金二郎	椋野國勝	北川稔	川北平太郎	日高喜作	河野慶治
高橋坂衛	石川芳範	新日本園 河野通代 市内サルミエント街八七〇番	内藤鶴雄	荻野定男	羽生兄弟
在亜 日本人會	日本小學校	在亜 農業研究會	日本庭球倶楽部	在亜 蔬菜園藝 同業組合	在亜 日本人園藝會

謹賀新年

昭和六年元月元旦

小太田千代繁 林義彦	山本儀平	崎間麗徳	門田勇吉	本間鉄雄	伊藤清藏
上田平作	兒玉貞次	崎間裕司	杉原隆治	原田靜雄	山本栄治郎
石原生	岡田領治	本田次郎	腸水鉄弥	福田勝市	桐原茂雄

紅白倶楽部	在亜日本人自動車運轉手恊會	日本少年蹴球團	在ミシオネス北進會	在チヤコ日本人棉作恊業組合

年新賀謹

昭和六年正月元旦

松井完爾	齊藤彦藏 彦次改名	佐藤貞次	横堀三四	岩崎次郎	能勢忠平
請村常次郎	後藤貞彦	泉田四郎	西岡一秀	杉本清次郎	秋葉新一
又吉全行	星野留造	門村眞一	岩住玄伍	西久保喜一 ロサリオ市	東利作
桐原茂 ベルヴィージュ	ペドロ小園	渡辺安治	吉田富	梶本儀平	坂本新吾

謹賀新年　昭和六年

正月元旦

齊田　義	相部善次郎	長嶺直哉	宮澤次郎
吉崎芳太郎	城戸市兵衛	福岡庄太郎 在アスンシオン	田原　豊 アイダ丸

賀正

一月元旦

日本野球團

不安相の一九三一年

木猿子

「農作に悩む秋」、斯の様ふ問題で今秋祖国に與へられた試練を吾々は亜国に居つても体験せねばならぬ。政府発表の農作予想果して間違ひなくば、世界的に Over Production で苦しめられてゐる小麥豊作の洪水が價格の暴落誘導するだけ有難迷惑がも知れぬ。

亜国経済のバロメーターであり、輸出の大宗たる小麥が、昨今では六弗割つて下押一方、斯んふ調子で行つたら五弗を割らぬとも判らぬ。

一九九一年丁度三十九年前亜国が直面した経済危機と同様の條件にあると、先週のラ・ナシオン紙の経済欄で散見したが、價格が斯れ迄崩落しても一向に海外顧客筋の買気が出ぬらしい。

十二月廿五日前後現在の主要農作物の輸出状態を一覧すれば左の通り。

種別＼年別	一九三〇年	一九二九年同期	一九二八年同期
トリゴ	二、一八五・四六六 噸	六、六四八・〇一九 噸	五、二八五・六五八 トン
マイス	四、六〇〇・四二五	五、〇一一・二二四	六、四〇四・一三七
リーノ	一、八八三・三四三	一、六五二・〇三二	一、九七五・六七九
アベーナ	四五七・七五四	四一二・一九八	三〇八・四九一

最も重要ふ位置占むるトリゴ、今年は昨年に比較して約三分の一、マイスは一割減である。

政府発表のトリゴ收獲予想表を見るに昨年の四、四二四・六二八噸に対し今年は七、三八六、四八七噸、斯れに昨年度残量四九六、九三一加算せば合計七、八八五、四一八噸となり、内地消費量二四四〇、〇〇〇噸差引いても輸出向在高五、四四五、四一八噸となるのである。

斯の難局を奈何に轉環するか政府当局の対策は新年度の経済界の動きの大綱をリードするものであるが、不況は其の間に多少の深浅があつても世界的に吹荒む颶風であり、人為策をのみもつて根本的に救済し得るものとは勿論断定が出来ぬ。

左翼の一部の社会主義者が提唱する様に、現在の不況の原因が資本主義の下に組織せられた経済的欠陥だから、世界を彼等の手に委ねて仕舞へば斯の不況は容易に救はるとも思へぬ。

其の様ふ難かしい理論が木猿子に判らう筈は勿論ふいが、人智の範囲で其の様に容易に自然の大勢を左右出来るものとすれば、左翼の代表赤露の政府が「理論と実際との喰違ひ」と悲鳴をあげなくてもよさそうふものである。

理論と実際の喰違ひは資本主義の方でもあるらしい。

産業の合理化、大量生産、マスシビリーゼーション等々のスローガンで進んで来たが、限りある世界の消費、行詰りを示して来たのは是非もない次第であらう。

従前一九三一年は世界を挙げて緊縮時代、整理時代として生産費の低下と物價の低下を計り、自然生活の単位も引下げられるから世界は不況の續行と看做して差支へなからうと世の識者は云つて居る。

亜国の現状を見ても刻下の急務として要求さるゝものは失張り世界の大勢、緊縮政策ではあるまいか。

本月中旬統計局から発表された本年上半期の外国貿易の状勢を見るに三六、三四三、九一二弗の輸入超過を示して居る。即ち輸出は昨年の五三七、二八〇、五〇六弗に比較し、三五〇、五九九、四二四弗で、一八六、六八一、〇八二弗の減少に対し、輸入は昨年の四二三、二九〇、四九〇弗より僅か三六、三四七、一五四弗の減少で、三八六、九四三、三三六弗の額を示して居る。

比率を求むれば、輸出減少、三割四歩七厘に比較し、輸入は漸く八歩六厘の減少に過ぎぬ。下半期に於ける小麥等の輸出の減少は更に甚だしいが、輸入は或は増加して居るかも知れぬから外国貿易の逆調は上半期以上に非道いものと予想が出来る。

一方に於て肝心の小麥其の他は前述の通り崩落に崩落を重ねて居るから正調に回復を計るには随分思切つた緊縮方針を執るより道がなからうと一般も観察してゐる。

緊縮方針は回復の前提として不景気を誘導することは今更木猿子如きの贅言を要せふい。さすれば一九三一年度は不況と測断して差支へないが、測り得て測り得ふいのが自然の大勢、何処でどんな理外の理が生まれて斯の形勢を逆轉させるかも知れぬ。

木猿子も斯く有り度いものと、ロテリアを当てる様ふ積りで果敢ふい夢を希つて居るが、どうも大勢は純理通り進む素因が多い様に思はれる。

謹賀新年
一月元旦
工藤金也

謹賀新年
一月元旦
内田千尋

謹賀新年
一月元旦
大山綱國

謹賀新年
一月元旦
入江儀一郎

謹賀新年
一月元旦
原昇

ティエラ・デル・フェゴに就いて

世界徒歩旅行者　岡田芳太郎

昭和六年一月一日

ティエラ・デル・フエゴ嶋 (Isla de Tierra del Fuego)

葡萄牙の大航海者フエルナンド・マガヂヤネスヴ西班牙王の委嘱に依つて二千の探検隊を編成したる本船五隻に分乗して西班牙バラメダのサン・ルカアル (San Lucar de Barrameda.) (サン・ルカアルはカヂス湾に於けるグアルダルキヴィル河口に位する港である) を出帆したのヴ、西厂千五百十九年九月廿七日であつた。進路を南へ南へとつて航行したのであるが、之の航海が餘りに永引くので水夫共の中に一種の恐怖と疑惑とに襲はれる連中が出来て一隻は途中から本国西班牙に向つて引返へしてしまつた。何しろ確然たる当てのないのに一年餘りも漂泊たる洋中に漂ふて居ては全く頼りない事であつたであらう。其の内又一隻が何時の間にヴ逐電したので残つたのは三隻となつたのである。越えて千九百二十年十一月一日南緯五十二度二十六分の処に到着して現今のマガヂヤネス海峡を発見したのである。尓来之の海峡を発見者の名に因んでマガヂヤネス海峡と命名されたのである。

延長約二百浬の之の海峡を東側の大西洋から西側の太平洋に出るには現今では僅ヴに一昼夜を要するのみであるヴ其当時は実に二十七日間を費やしたのである。即ち仝年十一月廿七日であつた。

彼は其の後不幸にしてフイリピン群島の一つであるテブ島 (Isla de Zebu) に於て蛮族の為めに斃れたのヴ千九百廿一年四月廿七日であつた。

彼ヴ世界一周を企図し其の使命を全うすべく前人未航の海路を開拓するに当り不思議にも二十七日と云ふ日ヴ三度も繰返されて居る事は実に奇縁であつた。即ちサン・ルカアルを出帆した時ヴ九月廿七日で、太平洋上に初めて出た日ヴ十一月廿七日で、テブ島で蛮族の為めに殺害された日ヴ又も四月廿七日であつた事である。

マガヂヤネスの挙ゆる探検隊ヴマカヂヤネス海峡を通過しつゝありし時、左方の陸地に当つてインディオ等の焚く篝火ヴ海岸一帯に亘つて眺められたので彼等は其処をティエラ・デル・フエゴ (火の地) と呼んだのである。其の呼称は今日に至るまで伝へられて世界地図には厳然とティエラ・デル・フエゴとして印されてある。

今を去る約五十年前までは之の島には僅ヴかインディオの み棲息する極寒の地、不毛の地として世人から顧られなかつたものであるが、偶々冨豪家の探検したる結果、牧場としては申分なき好適の土地である事が明瞭となつたので英人ハブス氏は約四十年前濠洲より数千頭の羊 (ロムネー・マアシュ種) を移入してヘンテ・グランデ湾 (Bahia Grande) の附近に放牧したのである。処ヴインデオ共は曽て観た事もなき妙な恰好した畜ヴ嶋内に這入つて来たので大に驚いて、不意にハブス氏の牧住居を襲撃し、全部の羊を捕えて海中に投込んで仕舞つた。そこでハブス氏は西班牙人ホセ・メンデス氏と謀つてインディオ退治を敢行したのである。其の方法は誰でもインディオを殺して右の耳を削取つて来た者には換貨一俵と交換したのである。之の残忍極まる行為は大に効を奏してインディオの数を急に激減せしめ、中にも柔順にして怯懦なる彼は奥深く隠遁したので現時に於ては却てインディオを見出す事ヴ困難になつて来たのである。私は島に上陸して十五日間に南緯五十四度半に近い炎の中に棲んで居るオナ族 (Ona) を訪ふて土産として彼等一族を撮影して帰つた。

人も知る如くティエラ・デル・フエゴ嶋はマガジヤネス海峡の南方に当つて南緯五十二度二十六分より五十五度十分の間に位する面積約十万平方料 (内智利領の面積は五万千百四十平方粁) の島である。全島を東西に二分して東部は亜領に、西部は智利領であつた。総人口は約五千。嶋内の北部と中部には立派車道が出来て居る。二百五十台の自動車は東西南北に縦横よく駛走して居る。狭軌線ではあるが十二粁の延長を持つ鉄道が敷設されて居る。電信電話の設備も整頓してゐる。誰しも斯んな辺鄙ふ島に文明の利器が適用されて居る事は夢想だにせなつた事であらふ。斯く云ふ私も案外であつたのである。それのみならず之の嶋ヴ新大陸の南端に位置して居るので気候の関係上農作物は穫れまいと想つたであらうヴ、事実はどうして〳〵無参も薯付けられるし蔬菜類も好く出来る。

工業ではリオ・グランデの河口に大規模の冷凍肉工場ヴ建つて居る。本年の屠殺予算は羊二十五万頭である。イヌチル湾には小規模の蟹の罐詰工場ヴある。森林地帯には製材所ヴ二ケ所もある。

鉱業方面では嶋の西北部に当つて南より北に向つて流れてゐるオロ河とヴエルデ河との河床から砂金ヴ採取されてゐる。大仕掛けの砂金採取用のゾレーヂヤは七台もあるが、それは目下休業されてあつた。

何んと云つても之の嶋の重ふる産業は畜産である。私ヴ訪問したティエラ・デル・フエゴ開拓株式会社は千八百九十三年の創立で経営の主任者は英国の豪商ゾンカフォークス商会である。総資本金英貨百八十万磅。智利政府から借地して居る面積は七十六万四千百十五町歩で、亜国からは十八万千六百五十五町歩であるから、総面積は九十四万五千七百七十町歩となる。処ヴ実際に会社ヴ使用して居る土地は実に百八十九万五千七百七十町歩と云ふ広大なものである。

千九百廿八年六月三十日に発表されたインヴェンタリオを見ると、羊は百三十二万千百六十三頭、牛は五千五百七十六頭、馬は九千六百廿一頭居る。同家産出された羊毛は九百九十六万三千七百七十二封度であつた。一頭の羊から平均して七封度九十三の産出となつて居る。カレタ・ホセナ牧場のみの支配してゐる土地の面積は廿八町歩餘りで羊は十八万頭居る。一牧場内に飼育して居る羊の頭数の多い点では世界に於ける最大なものであると。其外に私ヴ巡回訪問したる人々の経営して居るエスタンシアの中に却々大規模ふものヴ多い。

亜領の方でサラ・ブラウンと云ふ露西亜系の猶太人の後家さんヴ所有してゐるエスタンシア・ラ・サラ (Estancia La Sara) は面積八万町歩の土地に羊は十一萬頭居る。エスタンシア・マリア・ベエティ (Estancia Maria Behety) 是は西班牙系の智利人であるが、十三万八千頭の羊を所有してゐる。エスタンシア・ホセ・メネンデスは、実張り西班牙人であるが、十六万町歩の土地に羊十三万頭居る。エスタンシア・ヴイクニヤ (Estancia Vicuna) はマガヂヤネス産業牧畜会社の経営であるが、羊は三万五千頭居た。ユーゴスラヴヰ人の経営であるエスタンシア・ディスコルディア (Estancia Discordia) には二万五千頭の羊が居る。一万頭乃至二万頭位の羊を所有して居る牧場は沢山なものである。

私の最も驚いたのはユーゴスラヴヰ人の発展であつた。仝嶋に亘つて二千人餘り移住して居るヴ、孰れも大なり小ぶり牧場を営んで居るは感心させる。彼等は此の嶋に三十年間の ア史を持つて居る先駆者連であつた。

東洋人は此の嶋には一人も居ふいであらふ。東洋人として此の嶋の土を踏んだものは斯く申す私ヴ先嚆矢一の功名者であらうと即ヴ已惚れて居たヴ、エスタンシア・サン・セバスティアン (Estancia San Sebastian) (ティエラ・デル・フエゴ開拓株式会社の附属牧場) を訪問した時、同じ東洋人である支那人のホセ・カピアと云ふ香山生れの男ヴ此のエスタンシアに十六年間も働いて居る事ヴ知れたので、高くも ない鼻ヴスコンと折られて了つた。支那人こそは世界到る処に入込んでゐる。

亜国政府は重罪犯人をウシュアイア (Ushuaia) の監獄へ護送する。恰度我国北海道の空知監獄と同じやうなもの。其のウシュアイアはティエラ・デル・フエゴ嶋の南の果にある小さい港である。

(完)

敬愛する某君に呈するの書

仙骨

足下の御家は其富例令陶朱倚頓を圧し三井岩崎を凌駕し能はざるも亦決して水呑百姓にあらず例令良二千石の名門にあらざるも決して徴多非人の家柄にあらず、故を以て其名遠邇に聞ふ。殊に足下は天資英邁特得の奇僻を有し宇内を呑むの概を有す。

語に曰く、桷檀は双槃より馨はし、猫兒は幻にして能く捕鼠の状をなす。蓋し之れ足下の如きを言ふなり。

然れど足下は未だ真に浮世の辛酸を知らず、米は米櫃より湧くものと思ひ、銭は銭箱より生ずるものと考へ、物として給せられざるなく事として足らざるなき所謂貴公子坊様育ちの人物なり。然るに一朝志を立て如何ふる風の吹き廻しにや一萬里外の当地に来たり初めて驚く人生の行路嶮呼実に難いかな。糊口の途大志は飛んで天にある也人間萬事塞翁の馬、月に叢雲花には風まゝならぬこそ是非なけれ。世俗に所謂聞いて極楽見て地獄、何処の里もなきものは金、あるものは借金汗を出さねば甘き事なく、寝て居て福は来らざるなり。

粒々辛苦今や身の上如何に負けず嫌ひの足下と雖も深夜孤燈に対し四隣静かに人事定まるの時、熟々過去を追想し前途の茫々たるを想像せば定めて断腸感慨措く能はず。窓かに冥天を仰いで「天の下遠き亜国で今ぞ知るいとも貴きたらちねの恩」との感を抱かるゝなるべし。語に曰く可愛い子には旅をさせよとは蓋し此事、古人真に吾人を欺かざるなり。

本邦にありし際家計餘り豊かならず濛々浪々無券旅行と洒落込み箱枕けの鑿当を演じ上陸致せし海で千年山で千年の元気よき苦労人すら間々わが身の不遇を嘆んじ、慕郷の念に駆られ其末自暴自棄に陥入る事あり、況んや何等の不自由もなく室咲きの梅花の如く大切に父君よりは掌中の玉として寵愛せられ栄耀栄華平家の公達の如く育ちし足下の事なれば、猶一層感慨無量なるべく父君居ます時は遠く遊ばぬ故に背き足を挙げて遠き此土に来たりし事を後悔致し居らるゝ事なるべし。

愚仙の怪訝に堪えざるは、昨今来亜の同胞等は到着の当時は元気旺盛恰も猛虎の群羊を駆るが如き勢ひなるも、時日の経過するに従ひ初めの元気は何処にやら糞壺に落ち込みし鼠の如く意気悄沈見る影もなき意気地なしと変ずるなり。従前はいざ知らず昨今亜国に就ての宣伝者はまさか亜国の沃野は縄張り次第で自身の所有に帰するとか満々たる野生の牛馬は自由に捕獲し得るとか一獲千金濡れ手で粟の攫みどりとか聞いた口に牡丹餅小判で頬ぺたを叩かるゝが如き甘き事は言はぬ筈なり。

本邦にありては鋤を春天の雲雨に把り、汗を夏日の炎熱に揮ひ、朝には星を戴きて出で夕には月を踏んで帰る辛苦艱難致すも襤褸口に飽かず、襤褸身を蔽はず夫妻寒に泣き、親子餓に叫ぶ、将来発展の見込み立たず貧困より〳〵借金より〳〵貧困に陥り、終に其家を売却し、手当り次第に労働に従事しあるが如く、後日足下が事業を経営するに当り、親友あるが為めに真面目ふる有力家より挙業の発揮すべき機会に遭遇致す事あり。

足下は着亜以来既に年餘其間一度も何等の不平不満も称へず少しも厭気を催さず一夜の春も買はず、然れば女馬に跨がり、念然坊主の所謂征虎流にて祖先伝来の鎗を振り廻はす必要も無く、気取りて賓と親しみ、或は風流人を真似て四季の景色を卓上に眺むる事も無く、赤垣源三を師として徳利を友とし、武林唯七を向ふに廻はして盃を把つて徹宵致すの愚も演ぜず富豪の子弟としては珍らしき人物なり。

足下は又薄給なるにも係はらず何等の貯金を致さず否な次へて多少の貯蓄を致し居らるゝ事愚仙の最も敬服し居るは即ち此の勤倹の精神なり。嗚呼足下の如きは世間の戦場人生の軍陣に於て初陣の一大功名者と申すべし。

然れど前途は猶ほ遼遠、山あり谷あり坂あり河あり充分の注意と奮闘を要す。語に曰く、智者も千慮の一失、愚者も千言に一得ありとか、然れば愚仙が過去の実験より得たる二三の金言を左に列記すべし。

○朝寝と晝寝は慎しむべき事。

こは亡国の徴なり、泥棒や女郎や博徒や怠惰者の致す事なり、尤も夜業に従事し居りにあらず。

○評判のあしき人を友とせざる事。

彰に其友を見て其の人を知れとあるが如く、後日足下が事業経営の暁に当り悪友あるが為めに真面目ふる有力家より挙業の発揮すべき機会に遭遇致す事あり。

○収入の多からん事のみに没頭せらるゝよりも一文たりとも支出の少ふき様注意せられたし、労以て之を得憤以て之を貯へ居らるゝ足下には無要の金言ふるべし、然れど在亜同胞中に此言を実行し居る者果して幾人かある、嗚呼三尺の兒童も言ふ事は易く八十の老翁も行ふ事は難し。

世上には人物の信用あつて金銭上の信用ふきものあり、又金銭上の信用あつて人物の信用ふきものあり。前者は故板垣伯の如きを言ひ、後者は故平沼専蔵の如きを言ふ、若し足下が現状のまゝにて将来まで押し行かば品行方正ふるが故に人物の信用を得又勤倹貯蓄せらるゝが故に金銭上の信用も得らるゝなり。之れ実に愚に鉄棒とも申すべく、事業経営の上にはもっとも必要ふる信用ふり。嗚呼足下の如きは在亜同胞中での模範的青年、将来の成功や期して待つべし。敢て拙辞を呈すと爾言ふ。

（完）

賀正

一月元旦

田中長造

TINTORERIA
"TOKIO"
EN BELGRANO
MENDOZA 2450
U.T. 2819 BELGRANO

GRAN TINTORERIA Y TALLER
DE LAVADO Y PLANCHADO
"EL YOKOHAMA"
Bmé MITRE 2511
U.T. 47 CUYO 7159

賀正

正月元旦

岩尾朝平
平田綱吉

賀正

正月元旦

「横濱」洗濯店
上久保 文吉

御料理
御旅館
昭和館
杉本春松
コリエンテス街 二五二九
電 クーヨ・八七六三

恭賀新年

昭和六年正月元旦

CORRIENTES 2529
U.T. CUYO 8763

CONFITERIA Y PASTELERIA

LA JAPONESA

MENDOZA 1084, ROSARIO

賀正

昭和六年正月元旦

ロサリオ市
コンフィテリーア「ポネサ」

石井兼利

CAFE YOKOHAMA

STA. FÉ 1172

ROSARIO

賀正

昭和六年正月元旦

カフェ「よこはま」

小園正次郎
中釜庄成
狩集清

CAFE JAPONES

DE

M. KAMACHI

CASA MATRIZ

CORDOBA 1060

SUCURSAL

SAN MARTIN 921

賀正

正月元旦

ロサリオ市

蒲地正登

CASA "KAMACHI"

OBJETOS DE ARTE DEL JAPON PARA ADORNOS Y REGALOS

SARMIENTO 1033

ROSARIO

CAFE
"SOL NACIENTE"
DE
MATUMOTO Hnos
SAN LUIS 1128, ROSARIO

謹賀正

ロサリオ市
カフエ・「ソル・ナ・シエンテ」
松本辰平
〃秀喜
牧野末松

CAFE TOKIO
DE HIRAY Hnos
SANTA FE

謹賀新年

本店 サンタ・フエ市カフエ「東京」(創立一九一四年)
第一支店 サンマルテイン街 二三三四 平井庄八
第二支店 リバダビア街 三〇〇〇 〃勝治
第三支店 サンマルテイン街 二四四〇 〃次七

CAFE TOKIO
POSADAS (MISIONES)

謹賀新年

昭和六年正月元旦

ポサーダ市
カフエ・「東京」
山口喜代志
〃範一
〃實之助
〃六郎

CAFE TOKIO
JUJUY
F.C.C.A.

恭賀新年

昭和六年正月元旦

フライ市
カフエ・「東京」

比嘉昌龜
今昌和

CAFE ESPAÑA
JUJUY
F.C.C.A.

恭賀新年

昭和六年正月元旦

フライ市
カフエ・エスパーニヤ

濱村保二郎
藤村與惣次郎

1931 Feliz Año Nuevo 1931

SIERRA DE CORDOBA

HOTEL "PLAZA"

DE

JUAN KAWABATA

(QUINTA JAPONESA)

UNQUILLO

F.C.C.C.

コルドバ州
ウンキーリヨ

川端嵩

CAFE "YOKOHAMA"
DE
S. MIYASATO Y CIA
RIVERA INDARTE 23
U.T. 6318
CORDOBA

賀正
昭和六年正月元旦
コルドバ市
カフエ・よこはま
宮里盛善
上原清正

FELIZ AÑO
1931 NUEVO 1931

RESTAURANT
JAPONES
DE
LUIS S. YAMAGUISHI

CALLE RIVADAVIA 484
U.T. 6526
CORDOBA
F.C.C.A.

J. ONUSHI
Importador de Artículos Generales del Japón
24 DE JUNIO Nº. 66 (U.T. 5148), CORDOBA

賀正
昭和六年正月元旦
コルドバ市
大西佐一郎

CAFE JAPON

DE J.TAKEUCHI

CASA MATRIZ
CALLE SAN MARTIN
658
ROSARIO

竹内重吉

ロサリオ市
カフェ・ハポン

正月元旦

賀正

SUCURSAL
CALLE SAN MARTIN
935
ROSARIO

賀正

正月元旦

コリエンテス市

ALMACEN
ASA ORU
CORRIENTES

アルマセン・カサ『とり』

津曲
今恒諦
太二
郎

PENSION y HOSPEDAJE

RESTAURANT JAPONES

DE

HIGA Hnos

CALLE BOLIVAR 440
POSADAS
MISIONES

謹賀新年

正月元旦

ミシオーネス
ポサーダス市
レストラン・ハポネス

比嘉榮一兄弟

CAFE JAPONES

CASA MATRIZ
CHACABUCO F.C.P.

SUCURSAL
CHIVILCOY F.C.O.

謹賀新年

昭和六年正月元旦

カフエ・パポネス

本店 チャカブコ市
支店 チビルコイ市

吉峰佐之助
遊佐壽
藤田友八

CAFE NIPPON

ADA DE MASSIY, LINCOLN F.C.O.

謹賀新年

正月元旦

リンコルン市

カフエ・「ニッポン」

倉本倉太
伊藤戎左門

CAFE JAPONES

DE IKEY y NAKAOYATA
BELGRANO 301, VENADO TUERTO F.C.C.A.

謹賀新年

正月元旦

コルドバ州
ヴェナード・トウエルト

カフエ・パポネス

伊計武太
仲親田恩亀

FELIZ AÑO
1931 NUEVO 1931
THE JAPAN BAR

恭賀新年

ヂャパン・バー

新垣徳衛

大城永浦

市内ベンティシンコ・デ・マーヨ街四二七

25 de MAYO 427-37 U.T. Retiro 0675

CAFE THE JAPAN
GENERAL HORNOS 16
U.T. 23 B. Orden 4540

賀正

正月元旦

カフエ・ザ・ジャパン

及川晋治

ヘネラル・オルノス街一六
電話ブエノルデン四五四〇

TINTORERIA
"LA MODERNA"
DE K. MIYAMOTO

賀正

「ラ・モデルナ」染色店

宮本好

RIVADAVIA 2670 – U.T. 47 Curo 6044

ALMACEN y BAZAR
DE
T. NAKAGAWA
SUAREZ 1300
U.T. 0869 Barracas

賀正

正月元旦

アルマセン兼バザール

中川商店

市内スアレス街一三〇〇
電話バラッカス 〇八六九

TINTORERIA
"SAGA"
MEXICO 1424
U.T. MAYO 1259
Bs. As.

賀正

洗濯店「佐賀」

北島覺逸

メヒコ街一四二四
U.T. マーヨ一二五九

TINTORERIA
LA HIGIENICA
DE
K. HONDE & Hnos
MAIPU 856 – U.T. 31 RETIRO 0344
Bs. As.

恭賀新年

正月元旦

本出嘉太郎
仝 小市

マイプー街八五六
U.T. レティーロ〇三四四

恭賀新年

正月元旦

日本御料理仕出し会席

来賓亭

かまぼこ調製配達致します

松尾好一

市内パトリシオス街一九
電話 フエルデン 五七三五

恭賀新年

正月元旦



だるま亭

松田清市

市内ヤヤカブコ街七七〇
電話 アベニーダ〇二四三

TINTORERIA
"NIPPON"
DE
K. SAKAMOTO
LINCOLN F.C.O.

賀正
正月元旦
洗色店「ニッポン」
坂本倉太

TINTORERIA
"YOKOHAMA"
DE
C. SUGAWARA
MAIPU 683 U.T. 31 RETIRO 2168
Bs. AIRES

賀正
正月元旦
洋服帽子クリーニング及修繕
「横濱」高等染色店
菅原長吉

TALLER
"HINOMOTO"
DE LAVADO Y PLANCHADO
A GAS Y ELECTRICIDAD
DE
ONAHA Hnos
LIMA 489 U.T. MAYO 4898

賀正
ひのもと
洗濯店
小那覇兄弟

RESTAURANT
"SAKURA"
DE
M. MIYAHARA
SARMIENTO 28, CORDOBA

賀正
レストラン「さくら」
宮原基

CAFE JAPONES

CORRIENTES 2561-3

U.T. 47 CUYO 4383

B.s AIRES

賀正

正月元旦

酒井和市

七草木乃亜

ALMACEN JAPONES

DE

T. YAMAZAKI

CATAMARCA esq. TUCUMAN

COSQUIN F.C.C.N.A.

賀正

正月元旦

コスキン市

山崎忠直

TINTORERIA

"JAPON"

DE

K. ARAGAKI & HNO.

E. RIOS 1075, ROSARIO

賀正

「ハポン」染物洗濯店

新垣喜盛兄弟

TINTORERIA

"TOKIO"

DE

M. SHIRA

SALTA 2150, ROSARIO

賀正

「東京」染色店

志伊良松

TINTORERIA
"EL KIOTO"
DE
F. TAMASHIRO Hnos
25 DE MAYO 144 U.T. 6214
CORDOBA

賀正

コルドバ市
「京都」染色洗濯店

玉城福棟兄弟

"EL JAPONES"
GRAN TINTORERIA Y TALLER DE
LAVADO Y PLANCHADO
DE
M. OSHIRO
TUCUMAN 71 U.T. 3117
CORDOBA

賀正

コルドバ市
「エル・ハポネス」染色洗濯店

大城守吉

CAFE "TOKIO"
DE
FIJI NAKAMA
TANDIL F.C.S.

賀正

正月元旦

タンディル市
カフエ・「東京」

中間榮二

CAFE NIPONES
DE
T. TSURU
AZUL F.C.S.

賀正

正月元旦

アスール市
カフエ・「ニッポネス」

鶴次
長馬

EL "TOKIO"
TINTORERIA JAPONESA
DE K. AMANO
LAVALLE 567
U.T. 31 Retiro 3335

賀正
元旦
「東京」染色店
天野今朝治

LIBRERIA
"ORIENTAL"
SANTA FE 3757

賀正
日本書店
店舗 サンタ・フエ街 三七五七
事務所 MALABIA 2441, BUE NOS

賀正
元旦
在亜染色洗濯店
同業組合

CAFE "SATUMA"
DE KUROKAWA Hnos
SERVICIO ESMERADO

CASA PRINCIPAL
RECONQUISTA 424
U.T. 31 RETIRO 2896

SUCURSAL
Av. L.N. ALEM 316 — 22
U.T. 31 RETIRO 1571

カフエ「さつま」
黒川禎助
仝 義盛

旦元月正 **年新賀謹** 年六和昭

TINTORERIA
"JAPON"
SANTA FE 3600 esq. ARAOS
U.T. 71 PALERMO 6589

ハポン洗濯店
竹村銀次郎
サンタフエ街 三六〇〇
U.T. パレルモ 六五八九

TINTORERIA
JAPONESA
TALLER DE LAVADO Y PLANCHADO
K. NAKAGAWA

PARANA 620
中川勘助
U.T. 38 MAYO 7181

TINTORERIA
JAPONESA
DE E. SHINDEN

CASTRO BARROS 334
新田榮助
U.T. 45 LORIA 4253

寫眞師
佐藤貞則
STGO. DEL ESTERO 180
U.T. MAYO 2490

EL YAMATO

TINTORERIA, LAVADO Y PLANCHADO

DE M.W. SENO

LAS HERAS 1987

U.T. 44 JUNCAL 5091

「やまと」染物洗濯店

瀬尾和太郎

旧正月元旦　謹賀新年　昭和六年

"EL NORTE"

LAVADO Y PLANCHADO

PARAGUAY 1328

洗濯店「エル・ノルテ」

谷本兼吉

U.T. JUNCAL 5064

TINTORERIA "JAPONESA"

DE JULIO M. MIYATA

PAMPA 2420 esq. CABILDO

宮田政市

U.T. BELGRANO 7329

"NEW YORK"

帽子・フランネル機

拾ヶ月掛けで販賣致します

◎發賣所

市内 リベルター街三七九

電話 リベルター 三三九五

DR. GALANTE

痲病黴毒尿道

皮膚生殖器障害專門

◎診察時間

午后五時より
仝十時まで

◎日曜日
午前十時より
仝十二時まで

RIVADAVIA 1569
2° Piso
U.T. Mayo 3511

ALMIRANTE BROWN 1347
(Bosq.)

KIOTO
CAFE y BILLAR
CORRIENTES 2702
U.T. 4012 CUYO

カフエ・「京都」
コリエンテス街二七〇二
電話 クーヨ 四〇一二

窪秀藏
窪禎

旦元月正　恭賀新年　昭和六年

HIGIENICA
TINTORERIA JAPONESA
TALLER DE LAVADO Y PLANCHADO
C. PELLEGRINI 747　U.T. 41 PLAZA 5520
DE T. UCHIDA

洗濯店「イヒエニカ」
内田貴像
カルロス・ペレグリーニ街七四七
電話 プラサ 五五二〇

TINTORERIA
JAPONESA
RIVADAVIA 1941
U.T. 47 CUYO 4054

洗濯店
知念福盛
リバダビア街 一九四一
電話クーヨ 四〇五四

TINTORERIA
"ASAJI"
DE S. NAKA.

「朝日」染色店
仲新次郎
TUCUMAN 1654
U.T. 38 MAYO 2316

TINTORERIA
"EDO"

染色店「江戸」
眞玉橋朝展
我如古盛宗
RIVADAVIA 6114
U.T. FLORES 6863
SUCURSAL CANNING 1074

"EL TOKIO"
TINTORERIA Y TALLER DE SOMBREROS
DE J. KAMIOKE
INDEPENDENCIA 3693
U.T. 45 LORIA 1365

「東京」染色店
上桶甚太郎

旦元月正 年新賀恭 年六和昭

TINTORERIA
"NEW JAPAN"
DE TAAGO HERMANOS
ASAMBLEA 827
(al lado del Cine Asamblea)
U.T. 60 CABALLITO 1220
他阿呉
仝
牛清松

TINTORERIA
"YOKI"
DE
Y. OKAWA
ARENALES 2301
U.T. JUNCAL 4675
大河榮一

GRAN TALLER
JAPONES DE LAVADO
"EL ASAHI"
洗濯店「朝日」
宮園新之助
CHARCAS 1873 - U.T. JUNCAL 4366

TINTORERIA
"MIKADO"
GRAL. URQUIZA 26
U.T. 62 MITRE 1457
知念繁雄
比嘉飼巧
根路銘安一
比嘉英吉
比嘉馨
比嘉ウト

TINTORERIA
"IRIS"
STGO. DEL ESTERO 163
U.T. MAYO 1166

染色店
「イリス」
坂本榮次郎

昭和六年　謹賀新年　正月元旦

TINTORERIA
BELGRANO

花本保

MONROE 2937

U.T. BELGRANO 3981

TINTORERIA
"GRAN SUD"

「グラン・スード」染色店
吉田仁吉

B. de IRIGOYEN 1588
Casi Esq. BRASIL

U.T. 23 B.Orden 3235

TINTORERIA
"JAPONESA"
DE YOGUI Hnos.

與儀兄弟

MEXICO 883

U.T. 38 MAYO 3302

とうふ・こんにゃく
製造販賣
新屋敷商店
市内カリフォルニア街 二八四番

TINTORERIA
"NUEVA TOKYO"
DE Y. FUKADA
AYACUCHO 437
UT. 47 CUYO 7226

染色店
「ヌエヴァ・東京」
深田八重郎
アヤクーチョ街四三七
U.T.クーヨ 七二二六

恭賀新年

昭和六年 正月元旦

E. Yamada
MASAJISTA JAPONES
CONCORDIA 4778
U.T. 50 VILLA DEVOTO 1226
日本式按摩並びに鍼灸治療致します。
山田忠重
コンコルディア街四七八
U.T.ヴィラ・デボト一二二六

FABRICA DE
MUEBLES DE BAMBU
DE IKUJI SAEKI
COCHABAMBA 1300
竹細工製造販賣
佐伯亥九二
コチャバンバ街一三〇〇

ENRIQUE MOREIRA
DESPACHANTE DE ADUANA
IMPORTACION Y EXPORTACION
通関手続人
エンリケ・モレイラ
RECONQUISTA 144
Esc. 21 y 22
U.T. AVENIDA 3883

DR. J.P. MUNZINGER
MEDICO CIRUJANO
獨逸病院附
並ニ日會顧問
醫師 ムンシンガー
178-LIMA-188
Bs. As.
U.T. RIVADAVIA 1154

CAFE JAPONES
DE
K. YSHIBASHI
CAÑADA DE GOMEZ. F.C.C.A.

謹賀新年

カニャーダ・デ・ゴーメス市
カフエ・「ポネス」
石橋金藏

CAFE "FUJI"
CASA MATRIZ
RIVADAVIA 231. CORDOBA F.C.C.A.
SUC. CAFE BAR "FUJI"
SAN MARTIN 115. VILLA MARIA F.C.C.A.

謹賀新年

カフエ・「富士」
本店 コルドバ市 木山
支店 ヴィヤ・マリア市 杉田
森口
熊末貞秀
吉喜次男次次

CAFE TOKIO
BELL VILLE
PROV. DE CORDOBA

謹賀新年

昭和六年正月元旦

ベル・ヴィーユ市
カフエ・「東京」
中村米助
山口末吉

CAFE SAKURA

LAS HERAS Y MAIPU

TUCUMAN F.C.C.A.

賀正

トクマン市

カフエ・さくら

伊東金五郎

比嘉和義

松浦道政

森重熊右衛門

謹賀新年

昭和六年正月元旦

コルドバ州ベル・ヴィージエ

吉本盛雄

野原蒲一郎

知念福英

CAFE JAPONES

DE

MATSUYAMA Y SHOJI

PARANA E.RIOS

賀正

昭和六年正月元旦

パラナ市

カフエ・ジャポネス

松山嘉次郎

庄司善右衛門

CASA MATRIZ

URQUIZA 519

SUCURSAL

25 DE MAYO 64

CAFE TOKIO
LAS HERAS Y SALTA
TUCUMAN F.C.C.A.

賀正

昭和六年正月元旦

トクマンシ
カフエ・「東京」

小牧齋造

CAFE TOKIO
25 DE MAYO 14-22
TUCUMAN F.C.C.A.

賀正

昭和六年正月元旦

トクマンシ
カフエ・「東京」

吉崎與吉
小國嶺雄
宮本肇

CAFE NIPONES
HOTEL, BAR DE MINWA HIGA Y BILLARES
CORRIENTES E ITUZAINGO, SALTA F.C.C.N.A.

謹賀新年

昭和六年正月元旦

サルタシ
カフエ・「ニッポネス」

比嘉民和

TINTORERIA
JAPONESA

CORDOBA 665
U.T. 27
COSQUIN F.C.C.N.A.

謹賀新年
正月元旦

コスキン市
前川雪江

Quinta JAPONESA
DE
K. AOKI

SAN LUIS esq SANTA FE
COSQUIN F.C.C.N.A.

謹賀新年
正月元旦

コスキン市
青木小一郎

CAFE
SALTA

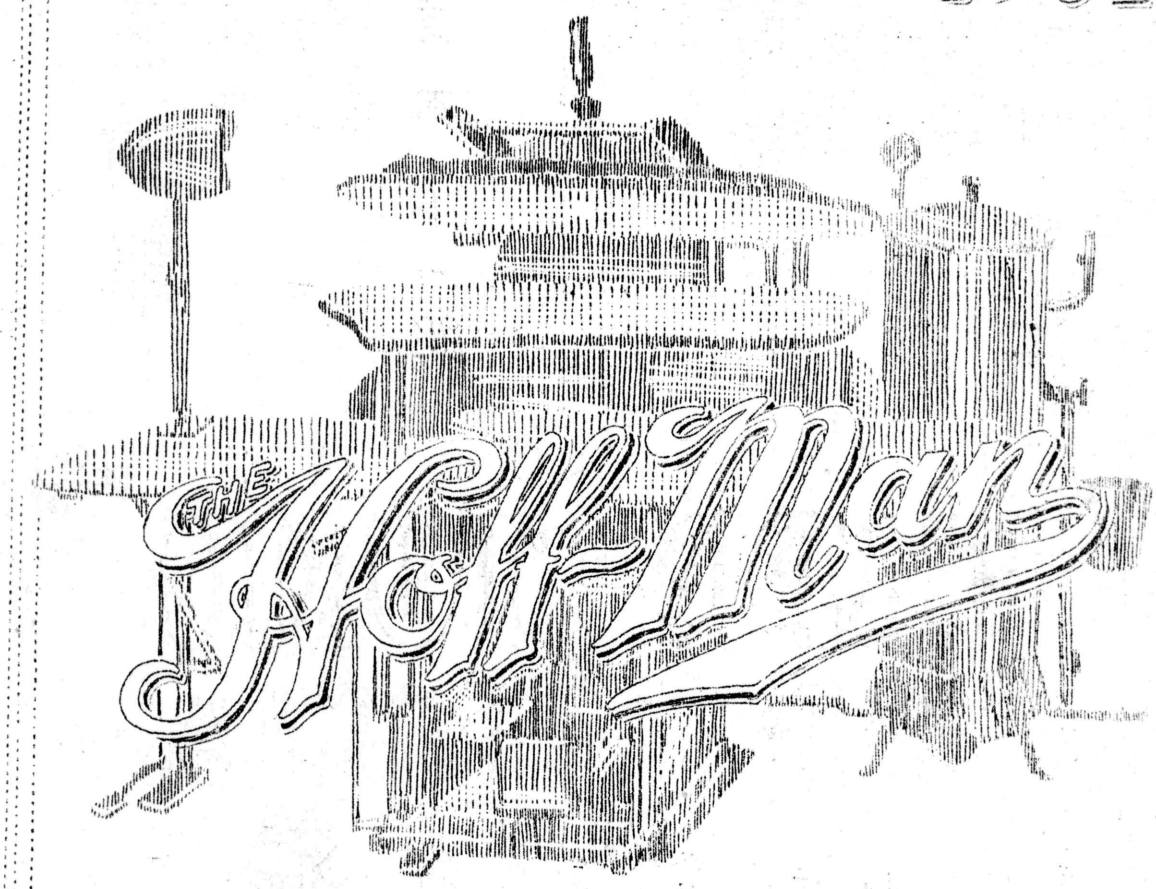
サルタ市
カフエ・東京」
王城新次郎
大城武正

TOKIO
F.C.C.N.A.

恭賀新年
昭和六年正月元旦

FELIZ AÑO NUEVO

1931 1931



COMPAÑIA HOFF-MAN MAQUINAS DE PLANCHAR

(UNITED STATES HOFFMAN MACHINERY CORP.)

ROBERTO H. KILSBY

REPRESENTANTE

LIBERTAD 182

U.T. LIBERTAD 1425

で兎に角ファンとファーナとの其の人生の基調と云ふものは愉快であるよりも寧ろ悲哀なるものである。

斯ふして歳月は過ぎ、小供が生れた時の抱擁と云ふものは嘗つてなしたる事のない程固くてまた熱烈なものであつた。爰に彼等の同棲は昭和六年一月一日には彼の妻から出たところのあの子供が生きて居ると云ふが殆んど不可能であるやうに思はれた。それから最初の小供が生れた。それは全く一つの新しい出来事であり、また奇蹟であつた。ファンは彼女の立派さと云ふものは眼のためのものと云ふよりも寧ろ心のためのものであつた。それは肉にまでも勝ち誇り一つの新生活をもたらしたのである。

斯ふして歳月は過ぎ、小供が生れるに連れて、ファーナは昔の新鮮な細づくりの處女から、恐ろしく過分にまで肥へ太つた中年女になつて了つた。彼女の輪劃と云ふものはすつかり破はされ、青春の花は萎んで了つた。彼女は未だそれでも立派であつた。併しもはや美しくはなかつた。彼女の立派さと云ふものは眼のためのものと云ふよりも寧ろ心のためのものであつた。それは追想の美ではなかつた。

ファーナは夫のファンが歳をとるに從つて性格に變化を来たし、同棲の情愛すらも冷めつゝある事に気が付いた。結婚の当座には情愛の残火から時々爆発して居たところの熱情の焔は益々杜切れがちになつた。もはや情愛しが残つて居なかつた。

で、純なる情愛と云ふものは往々にして感謝と混合せられ、時には憐憫とも見なされるものである。もはやファーナには彼女の夫のファンの接吻は妻に與へる接吻と云ふよりも、彼の小供達の母に対する接吻――斯くも美しくして善良なる小供を生んでくれた事に対して感謝をこめた接吻のやうに思はれた。また彼女の人生の凋落に対して憐憫的に與へる接吻のやうであつた。ファーナのファンに対する悪の如く感謝や憐憫だけで満足させられるやうな眞の、また深刻なる悪と云ふものは無いものである。悪なるものは決して感謝せられたり、また憐れまれたりする事を欲しないものである。悪は悪そのものに依つて愛せられんことを欲するのである。そして決して理屈に依つて愛せられるものではない――たとへそれが如何に立派なものであらうとも。

併し乍らファーナは一つには自らを見るために眼を持ち鏡を持つて居たと同時に沢山の小供を持つてゐたのである。また其の上に夫に対して信頼と尊敬とを持つて居たのである。また何よりも総てを制抑するところの情愛を持つて居たのである。

彼女は夫のファンが何か煩悶して憂鬱になつて居ることに気が付いた。また彼が煩悶して憂鬱であると全時に興奮して居ることに気がついた。一つの新しい青春が彼の血脈の中に血を沸き立たせて居るやうに見へた。それは恰も秋の始めにサン・マルチンの小春日和が、間もなく冬に凋枯れるべき草木に花を咲かせるところの情愛を持つて居たのである。

ファンは確かに憂鬱であつた。そして彼は孤独を求めて居た。妻のファーナが側で彼に話して居る時彼は何か遠方の事を考へてゐるやうであつた。彼は唯だ茫然としてゐた。ファーナは頭よりも寧ろ心を以て彼を眺めながら考察を廻らしたのである。その結果総ての女が頭に依らないで心の穿凿のみを信ずる時必ず見出すところのものをファーナは見出したのである。――ファンが悪に陥つて居ると云ふことを発見したのであつた。それに対しても、もはや疑をはさむ余地はなかつた。

ファーナは夫に対する愛撫と情愛とを増倍した。そして人生の基調と云ふものは愉快であるよりも寧ろ悲哀なるもの

ころの靴を打遣つて置いたのである。そこでファーナは好奇心と嫉妬と同情と恐れと恥しさとに一杯になつて自らの心臓の高鳴りをきゝ乍らおづおづしてその靴に手をかけた。其所に実に其所に例の寫眞があつた。そうだあれである。あれに相違ないのである。彼女はよくそれを覚へて居た。夫のファンが狂熱的にそれに接吻してゐる時彼女は僅かにその裏だけしか見なかつた。彼女は今あの時に見たのと全じ裏を見てゐるのである。

一瞬時立ち止まつて靴を置いた。それから戸口に行つて暫く耳を傾けた後に戸を閉めた。それから彼女は寫眞を手に取つて裏をがへしそれに見入つたのである。

彼女は先づ蒼白色に変じ呆然として了つた。それから恥からしさに眞赤になつたのである。彼女の目からは大きな二つの涙が寫眞の上に轉り落ちた。ファーナはそれを接吻して吸ひ取つた。それは実に彼女自身の寫眞であつたのである。あゝ何と時の速く過ぎ行く事よ！それは彼女が結婚する二三ケ月前に寫した二十三歳の時の寫眞であつた。ファーナが未だ許嫁であつた時分にファンに贈つたところの寫眞であつたのである。

その寫眞の前にあの情熱の全ての過去が彼女の眼のあたりに甦つて来た。あの時分にはファンは頭に一本の白髪も有して居なかつたし、彼女は細つそりとして歯のやうに若々しかつたのである。

ファーナは自らに対して嫉妬を感じたであらうか？それとも

ファンは眞赤になつた。そしてやつと不意の感動が鎮まると、その寫眞を手に取つて火の中に投り込んだ。それからファーナの側に寄つて双腕に彼女を抱へ込むるぶる震へる膝の上に生らせ乍ら永い接吻を彼女の口に押し着けた。それは情愛の中から青春時代の情熱を甦らしむるやうな接吻であつた。

彼は平穏なりし過去の二十幾年間に九人の子供を與へて呉れたところの生命の源泉とも云ふべき妻の優しい重みを感じつゝ云つたのである。

「寫眞にはいやだ。死んだものはなんだから。で死んだものは火の中に投り込むんだ。あれにではない。お前に、お前に、私のファーナ、私の生命に接吻するんだ。生きて居るお前に、俺に生命を與へたお前に……」

ファーナは彼のファンの膝の上で悪に身震ひしながら、二十三の春——今燃えて彼等を温めつゝあるところのあの寫眞の年齢にかへつて行くやうな気がした。

斯ふして既に鎮まつた情愛の平和と云ふものがファンとファーナの家庭を再び支配した。

（完）

賀正

竹原太郎

賀正

水野勉	澁谷源助	山脇龍雄	山内輝彦	右田納彦	谷口萬助	長江年吉	川村定一郎	大島健一	千葉藏任	平川末康	梅山莊友	南保正一	廣中仁治

逸まつた勘平七子

一

「モダン山崎街道」は大ラプラタ河の咽喉・ブエノス・アイレスのパレルモ公園で幕が開く。

池の端を西方に横切つて、人影の途絶えた、こんもりとした樹立の繁みの辺り、雨雫りの透明な大気を通して流れる十一月初頭の午後の陽光を避けるかのやうに、未だ濕つぽい草径を拾ふて漫歩してゐる奇異ふ二人連れの若い男がある。

「ねえ綾野。」振つてゐた握り太のステッキを丁と据えて、躰の重みをもたせながら、ラミリオ・ラミレスは振り返へつた。「お前は死といふことを考へたことがあるかい？」

綾野勘平はギヨツとした、暗緑を背景にした対手の力無い姿が鋭りにも其の言葉とぴつたり喰合つたからである。――彼はラミリオの召使である、看護人である、朋友人である。三年前までは、大洋に起伏する波の怒りを征服して行く黒船の甲板で、コンラードに心ならない空想を馳らせた冒険児、半生を潮の飛沫で洗禮した海の子であつた。彼がブエノスの埠頭でツラブつたのは、コンラードが何時しか山田長政に化けたからである。だが然し、眩漢たるパンパの国も既に科学の領域にあつた。糊口を凌ぐ為めには唯のオブレーロ勘平たるより他はない。汗の労働に轉々を重ねた今から一年前の或る日所在なさにパレルモ池畔のとあるベンチで、失業者の悩みを抱いて縷々幾刻、長政とコンラードの價値比較に迷つてゐた時、悪戯好きな神が、ラミリオ・ラミレスと邂逅させたのだつた。

「ありませんな。」長政は哲人ではなかつた。

「さうか、まあ結構だよ。……では、お金といふことに就ては考へるかね？」

「お、お金なら私の恋人ですよ。」

「アッハッハ……。」笑つた途端にラミリオは激しく咳きこむだ。肺結核患者なのである。医師連や附添つてゐた勘平が、驚いて引留めるのを振切つて一週間前、コスキン療院から引上げたのである。――と、立奇る勘平を手で制して、「もういい、もういい。……だが、其のお金なら俺には沢山あるのだがね。」彼は冷酷されたやうにムツとして肩を竦めた。

「いや、そんな意味で云つたのぢやないよ。ねえ綾野、この通り病勢が募つたのでは、俺はこの先き餘り長くは生きられまい人間だ。お金ふんぞに更らく未練がなからうと云ふものだよ。だがね、俺には未だ一番大切な仕事が一つ残つてるのだ。茲でラミリオは二ヤリと薄笑ひを洩らした。だがそれの理解は対手にとつて中々むつかしいことである。

「どうだい綾野、お前に必要ちそのお金の報酬次第では、お前が其の仕事を仕遂げて受れるだらうね？」

「私に出来ることでしたら……。」勘平ならずともポーツと上るところである。

「出来るとも！」ラミリオは俺つぶせる。「お前は船乗りだと云つたね？」

「さうです。」

「船乗りは流れ者が多いさうだね？」

「嘘ですよ、みんな私みたいに善良なものです。」

「どうだか、……ではお前、人間が殺せるかね？」

「え？」勘平はわが耳を疑つて聞き返へした。

「時と場合では人殺しが出来るかと訊くのだ。」

勘平は面喰つてしまつた。が、彼は彼自身で云つた如く、それは善良に過ぎる男であつた。

「出来ません！」声は凛として冴えた。

「しつ、静かに。」ラミリオは注意深く四辺を見廻した後、言葉を次いだ。「綾野、お前と俺の関係は、世間並の主従関係よりずつと違つた家族的親密を保つて来たとは思はないがいい？」

「それは仰つしやるまでもありません。」

「それなら、この俺が生命の危機に瀕してゐる場合は、援助して呉れるだけの親切がありたいものだね。況してお前は日本人ではないが。」

「勿論ですとも。ですが……。」彼は無意識に四辺を一瞥して、「我人だけは御免蒙りたいです。」

「対手が俺を殺さうとする悪漢だとしたら？」

「嘘です。あなたにそんな敵がある筈はありません。若しそれが真実なら何故警察の手を藉りません？」

「ふむ、警察か……警察なんぞが益々立つやうな対手ぢやないよ。」

「では私には尚更でせう。……さあ、ぼつぼつ引返しませうよ。此処は冷え冷えとして躰によくありません。」難関を切抜ける思ひで、勘平はそそくさと踵をめぐらせた。

チエツと舌鼓を打つたラミリオは、それでも勘平の後を逐ひながら云つた。「まあよく熟考してみることだね。」

二人は池の端へ出るとタクシーを捨つて、常になく気不味い思ひを乗せて家路を辿つた。

二

時代めく古色を帯びた鉄柵をめぐらせて、コロニアル風な二階家がパレルモに対つて、アベニーダ・アルベアールの一角を占めてゐるのも一つの皮肉である。孤児のラミリオが此の邸の当主となつたに就ては、少しこみ入つた経緯がある。

彼の父は郊外のサンマルチンに町成り手拡く煙花工場を経営したバレンシア生れのドン・ラモンである、ラミリオが漸く母の手に縋まつて、よちよち歩きを初めたばかりの一九〇九年の初頭、金町を騒がせたあの煙花爆発事件の遭難者せた餘名の中に数へられて不慮の死を遂げた。母は――いや母に就ては一つの挿話が必要である。或る日曜日、田舎気質の煙花工場の女工の一人が、其の妹を同じ工場へ嫁めたい胸算用で、強撒諂で以上に着飾つて二人連れでパトロンの家を訪れた。その時、十七を数へてゐたセンチメンタルな影が射す。

かつたなら、否、三十を過ぎて未だ独身の、其の癖チョイ〳〵屋のドン・ラモンが、安葡萄酒を飲過ごした日曜の午後の気まぐれに、其の「チヨイ」を出しさへしなかつたら、吾が哀れなラミリオは生れては来なかつたのである。父の死後、ラミリオは母と共に、ブエノスのカビルド街に大きなアルマセンを持つドン・ラモンの叔父に引取られた。五十の阪を越したヴィウド・ソルテーロの其の叔父が、若くて美しい母の為に、間もなく手に入れたのが現在の邸宅なのである。孫ほど年桁の違つたオリンダの歓心が、それで買へたが買へなかつたは別として、彼女はラミリオが六才の秋、犯されてゐた積年の肺患の為に、ドン・ラモンの後を追ふて逝つた。

三

今様六段目にも可愛いお軽は登場する。

階下では――階下はラミリオの母が死んでから間もなく、ずる〳〵ともぐり込んで、故ラミレス老人の第三夫人と成り済ました独乙猫太系の素性の悪しい婦人に依つて占領されてゐる。型の如く目算違ひを生じた老人からの財産分配で業を煮し、十餘年間を養育した情実を楯として、無理無理事実上のラミリオの財産管理人として収まつてしまつた。彼が病躯で短命なのを見越して、行々は、たんまり甘い汁を吸はふべく、腹黒い魂胆をいつも晴れやかな笑みでメッキしてゐる女傑である。

たとへ女傑でも、独居の春の宵はセンチメンタルな影が射す。

午後の徒然に対つたピアノで、四十女は常にない哀顔をたゝき出す――。

ヴェラース・ケ・トード・エス・メンティラ
ヴェラァス・ケ・ナダ・エス・アモール
ケ・アル・ムンド・ナダ・レ・インポールタ……

「ヂーラ・ヂーラ……」通りすがりの扉の前で、軽く調子を合せてゐるのは召使ひのカタリナである。

――ピアノをたゝいてゐた女傑の手がハタと止つた。

「カタリーナ、……カテ」

「お呼びになりまして、奥さん？」

カテはサー・オレンヂ実る南の里はバレンシアから、芽生えの頃を此の國へ移植された野生花である。家庭勤めには少し遠つ葉に過ぎる嬌態がこぼれる。

「あゝ」女傑はくるりと向き直つて頤をしやくつた。「もっとこちらへお出でよ、カテ……お前近頃二階で何ヶ変ふことでも気附かないかえ？」

「変ふことつて？」カテはドキツとする。

「あゝ、あのラミリオがねえ、近頃どうも様子ヶ変なのだよ。妙に鬱ぎこんだり、燥やいだり、それにあの躰でコルドバから帰つてからは、何処を迂路つくのか、毎晩々々十二時過ぎなきや帰つて来やしないのだがね。」

「そーう。だけど奥さん、それはお躰ヶ大分良いからなのでせう。」

「何ヶ良いものかね。コスキン療院からは又、是非戻すやうにつて注意書きが来た位だよ。薬一つ飲むではなし、ぼんとにどうしたといふのだらう。……若しものことがあつてご覧、私の立場ヶ一番若しいのだわね。」

「ご無理もありませんわ。」

「それにねえ。」四十女は声を落して、「昨日もね、藪から棒に是非一萬ペソ都合して呉れつて強請むんだよ。」

「え、一萬ペソ！」

「さうなんだよ。……みんなあれのものだからね、私に否應があらう筈はないけれど是つきりで後は五銭の金も要らぬなんて、眞顔で切口上を言はれたんでは、私も妾に薄気味ヶ悪るくなるわね。」

「まあ、どうしたといふので御座いませう？」

「さあね、何ヶ何だか籠張りなのだよ。……カテ、お前今夜あたり、あの綾野に当つてソツと探りを入れてみてお呉れでないかい？　お願ひだがね。」

「はい、宜しう御座ます奥さん。」

女傑は何の気もなく唯、綾野と指したのだが、カテは、少々気咎めを感じて叔らむだ。彼女は女傑の「懐刀」ではあつたが、又、勘平の「可愛いカテ」であることに気附かなかつたのは誠に〳〵千慮の一失であつた。

四

勘平ヶ一室を書斎みたいなものに、他の一室を寝室として、續く二室を独占して使用してゐた程、ラミリオ主従二人きりの住居としては其の二階は莫迦に広過ぎた。広いといふことは、其処に沢山の荷物を易々と包容し得ることでもある。東洋の聖人国ですら遠くて近しとさへ謂ふ男女の仲を、茲は新世界のブエノスで、近くて近しムカモこムカマの勘平と

カテの仲ヶ遂に距離を絶滅したからとて、それは其の広さヶ取持つ縁であつたのかも知れぬ。

夜は十一時を過ぎてゐた。「深川」もどきに昇つた階段を右に折れてカテは一つの扉をソツと叩いた。

「誰れ？」

「アタシ……カテよ。」

「チエツ。」女は時によつては五月蠅しものである。勘平は例の書斎の腕椅子に埋まつて、今日パレルモでの主人との会話を反芻してゐた。それはラミリオヶ「熟考しろ」と云つたが為ではない。ラミリオの死ヶ近き、将来にある以上、彼の現在の生活は遠からず崩壊するのである。長政的野心は、失業の悩みを重ねるよりも寧ろ一瞬の罪悪を貪つて他日に備へよ、――と誘惑する。彼は既に晝間のあの庸直な言葉の追隨者ではなかつた。動化してゐた。少なくとも心の均衡を失つて苛々してゐた……。「何か用ヶいて？」

「用事よ、急用よ。」カテは轉びこむだ。

「のどいわ、綾野。」

「……」

「どうしたのよう、綾野。思はせ振りヶ効を奏しないときは、逸早く敵門に降るのが兵法である。彼女は型通り甘つたれる。「もう、アタシヶ厭になつたとでもいふの、坊や？」

「止せよ。」

「まあ！　きつと何処かのコルドバ娘でも思ひ出したのだわ、きつと……。」

「莫迦な。」勘平は眞顔で否定した。否定しながらカテの高い鼻の横にくつきりと浮いてる黒子に可愛い一瞥を奪へる。「おいカテ、俺は少し眞面目な考へごとがあるんだ。用事ヶあるならサッサと片附けとくれよ。用事つて何だい？」

「まあ、せつかちね。この子は……。あんたヶ浮かぬ顔をしてるからアタシ慰めに来たのだわよ。其の鹿爪らしい考へごとつて一体なあに？　聞かして頂戴な。」

「ふむ、女なんぞの出る幕ぢやないんだよ。」

「まあ水臭いこと。アタシに話さないなんて綾野あんたよつぽど何うにかしてるんだわ。……この二階一近頃何んだヶ変ねえ。今日も階下の奥さんヶ云つてたわよ。変だ、変だつて……。」

「何ヶ変なものだい？」

「何も斯もよ。……あのね、ラミリオさん和、昨日もいきなり現金一萬ペソ要るつて奥さんに強請んださうよ。あんた……。」

「一萬ペソ！　道理で……。」勘平は思はず口を辷らせた。

「あら！　綾野あんたみんな知つてるんだわね。」カテは狡猾さうに含笑々をして、「ラミリオさん賭事にでも逆上つてるんぢやない？」

「賭事？　断じてないね。」

「では何うしやうてんでせう？」

「何うしたつてお前に関係無しぢやないか。」はゝあ、さては――勘平は肯づいた。「カテ、お前奥さんに頼まれたな？」

「あ、アタシ頼まれたわ。だけどね坊や、アタシ心配なのはあんたよ。あんたは悧巧だから、あんな絶望した病人とぐるになつて無茶な眞似はしないでせうけれど……。」

「アツハヽヽ。莫迦な、一萬ペソ位ねパトロンにとつちやほんのお小使ぢやないか、何を下らんヽヽ。」

「下らなかないわ。それならあんたの心配さうな考へごとつてなあに？」

賀正　西野七子
賀正　松田五郎
賀正　大林多吉
賀正　田中乙吉

「なあに、その……何んでもないんだよ。」勘平はドキマギする。

「綾野、カテは屹ッとなつた。「あんたは眞逆がアタシとの約束を反古にはしないわね」

「といふと？」

「パトロンからお金をセビつて、こつそり日本へ帰へらうといふのぢやない？。このアタシを捨て、……あ、……」時ならぬ夕立雲がムラムラと湧く。

「莫迦！下らん邪推も好い加減にしないか！」

「きつと然うなんだわ、きつと……」雲はポッリ〳〵と雫に変る。カテは遂々勘平の膝に崩折れた。

吾が勘平は「忠臣蔵」の武士のそれとは大に趣きを異にする。痴話の果てが膝に泣き入る女一人を持餘し脆くも理性を割られて、遂に主人の秘密をカテに洩らしたのも彼が素町人であるからは許されべきことであるだらう。

「ねえ綾野」泣き止んだカテは雨後の海棠である。「その悪漢つて階下の奥さんのことかも知れないわよ。」

「まさか……。奥さんを殺して何うするんだ。それどころか、パトロンは心から奥さんに感謝してるんだよ。」

「では、一体誰をと云ふのかしら？」

「？」

「一萬ペソ！」カテは瞑想するやうに双手を胸に当てがつた。「ねえ坊や、一萬ペソ有れば何か商ひでもして私達二人楽に暮せるわね。」

勘平はヂロリと女を顧みた。彼の頭は恐ろしい誘惑にこんがらがつてゐた。「俺に斯んな誘惑があらうなど、夢にも思つたらうか……」彼は思はず呟いた。

「ラミリオさんによく確めて、若し相手が罰せられてい、程の奴だつたら、あんた思ひ切つて遣つてみる勇気があつて？」

「さあね……」

「ご大層に威張つてゐても、此処いら辺りのお金持は、みんな、それ〳〵悪事をして来てゐるのよ。それでも神様はお許しになつてゐるわよ。それにあんたのは主人の命令に従ふだけぢやない？。機會を利用しなきあ駄目だわ。」

「うーむ。」彼は沈吟に首垂れる。

「二人きり、大丈夫漏れつこなしの秘密だもの、キッパリと遣るのよ、遣つ付けるのよ。」おそらく、カテの祖先は其の昔、地中海に出没した海賊の類ひであつたのかも知れない。

「うむ、男らしく遣るか！」勘平の眼はギロリと無気味に光つた。

鴫鷄が告げて雄鷄が刻をつくる。斯くて、この夜二人は情意投合二重奏を演じたのである。

五

それからカレンダーの日附を三枚ほどめくつた一九三〇年十一月七日とでもして置かう。

濁つたラプラタの河面をオダてて吹き過ぎる季節後れの南風のあほりに撫でられて、夜更けたパレルモの杜は一段と薄ら寒かつた。勘平はブル〳〵と胴震ひをして思はず外套の襟を立てた……掩ひかぶさつた梢に遮ぎられて屋明りさへ洩れない暗闇の中で、彼は底知れない恐怖に緊張した分秒を刻んでゐた。明瞭な遂行意識の下に殺人を敢てする為には、対手が彼の生活に没交渉な人間であるだけに、総ての努力を駆つて、兎もすれば尻込み勝ちな惨虐性を鞭達せねばならなかつた。

彼は、晝間其処で、ラミリオと謀し合せた通り、手筈を備へて、草徑を控えた一本の老樹の幹に身を潜めて、暗の樹立に隠顯する遥かな池の端の燈火をよすがとして、鳥羽魄の境を摸索してゐた。

飄然と現はれては、常に人間の運命を左右する「偶然」ほど恐ろしいものはない。茲に一人の男があつて、人眼を避けたパレルモの杜で、或る女と嬉しい媾曳を重ねたとする。彼女と袂を別つた其の男が、近道を辿るべく、此の夜、斯かる瞬間に、其の小徑に足を踏み入れたとしたら？……いや、それは単なる假定ではなかつた。勘平にもお軽にも亦は肺患者にも寸毫拘はりもない一人の男が、勘平の待設けてゐる午前一時に少し早く、偶然の貧乏籤である其の徑をスタ〳〵と通りかゝつた。……勘平は総身の血が一時に頭上に集注したほどの眩暈に似た緊張味に四肢をワクワクさせて生唾を呑んだ。来かゝる対手が約束通り太いステッキを引摺つてゐるか、鳥打帽に外套を着けて襟を立てゐるか、そんな事を窺ふだけの余裕は既う彼にはなかつた。見えはしなかつた。……ヤ？ヤ？ヤ！勘平は渾身の力を腕にグッと引いた。徑を挟んで向側の樹の根から張つた電線に、不意に足を掬はれた対手は、呀ッと驚声を立て、懐手のまゝモンドリ打つて大地にのめつた。……「うぬッ！」ギラリと暗に冴えて振り上げられた短剣は、無我夢中の勘平が魔力に打下ろされて、哀れな男の胸元深く突刺された……。

それは素晴らしい早業であつた。ホッとして四辺を顧みた勘平は、意識の回復に連れて又、募り来る新たな恐怖感に追はれて、逸早さして池の端を左にとつて行つた。

六

ラミリオ・ラミレスは其の夜、勘平に教へた午前一時きつかりに、池の端を――逃げ出した勘平とは反対の方角から廻つて例の杜の小徑にさしかゝつた。彼は鳥打帽に、外套の襟を立て、太いステッキを故意とらしく引づてゐた。馴染み深い場所ではあつたが、しつとりと露の重みを含むだ静寂な夜の杜は、死の途出に相應しい陰惨な気に迫つて、多感な彼を感慨無量の境に誘ふた。彼は意識して死の道を辿つてゐるのであつた。其の夜、勘平の手に掛かつて殺される件の悪漢とは他の誰でもない、彼れラミリオ自身に過ぎないのである。

ラミリオが何うして、然ふした茶番的な自殺方法を選んだかは、遂に審らかにする由もない。彼は瞑想的な子であつた。幼少の頃からパレルモの杜を脊景に数多い思ひ出を残して生きては来た。その上、その夜、最後の場所に選んだ一本の老樹の下には、嘗て彼が幼き頃、亡き母が多量の咯血に滲んだ土があつた。彼が又其の土の上に頽壟した血を塗らうと考へたとすれば、彼は餘りに狂気じみたローマンチックな男だと謂はねばならぬ。

ラミリオは其の樹蔭に近づいた。が、格別死に対する瞬間の恐怖らしいものを更に感じなかつた。

賀正
有水藤太郎
仝藤雄

賀正
村上清市
ロサリオ市

賀正
石井白帆
ロサリオ市

賀正
知念蒲
ロサリオ市

然し其れは動じない諦観の故ではない――対手は綾野であつた。刹那の意識次第で「俺だよ！」と唯一言叫んだら死の手を逃れ得られるからであつた……。

「？」彼は徑に横たはつてゐる不可解な黒い形ちを認めてハッとした。「綾野かい？」

黒い物は微動だにしなかつた。ラミリオは杖を構えて近づいた。小突いてみるスチッキに手應へを感じない。「綾野かも知れない？」木吉ぶ感ひに彼は手探りにマッチを摺つた。「お、！」其処には見も知らぬ若い男が、見覚えのある短剣に胸を刺されて虚空を掴んでゐた。「失敗つた！」彼は素速く短剣を抜くと男の脇腹を探つた……。「ああ、」悲痛ぶ呻きと共にラミリオはドカリと地上にへたばつた。

思ひもよらぬ失体に当面して彼は徒らに頭髪を掻きむしつた。だが掻きむしる必要はなかつたのである。神はチョイ〳〵悪戯をする――ラミリオが、思ひあぐむで無意識に手を突いた地上にヒヤリと手に觸れたものがあつた。彼は何気なく手にとつた。ヌラ〳〵と変に手が粘る……「お、！」それは彼が心臓を突刺すべく運命づけられて、晝間、彼から勘平に手渡しされた短剣であつた。剣は宿命を誤らなかつた……魅入られたやうなラミリオは、短剣の命ずるまゝに、それを左の胸間に当てがふとガバリと大地に打つ伏した。

七

「綾野……綾野」

激しく扉を叩く音とけたゝましいカテの呼声に勘平はハッと眠りから醒めた。カーテンから洩れる光線で、既に日が高く可成り寝過ごしたことを知つたのだが、彼は何だか変に頭脳が重かつた。彼は昨夜、心も空に漸く二階の寝室まで辿りつくと、やつと救はれたやうに吾に返つた。そして、一應服装を點検して異常がないことを確かめると一安心した気持になつて、其の儘寝床にもぐり込んだのであつたが、極度の興奮をした後のこと、て、取り止めもない雑多ぶ妄想に煩らはされて曉方近くまで眠れなかつたのである。

「綾野つたら、早くお開けよ、大変なんだよ！」

「大変？」昨夜の今朝である。彼はガバッと跳ね起きた。……這入つて来たカテの蒼白な顔色に彼は當ならぬ気配を感じた。カテは物を言はず、いきなり勘平にしがみついた。

「どうしたい？」

「あんた大変なことをしたわね。」カテは指を口に当て、低語の合図をする。

「？」勘平に呑みこめる筈はなかつた。

「あんた昨夜二人殺したんでせう？白状しておしまひよ。」

「え？莫迦な……一人だよ、一人……。」

「誰をよ？」

「知らん。あの暗がりで解るものかい……多分鳥打帽の男だつたよ。」

「あ、あ……綾野、そんならあんたラミリオさんを殺しちやつたんだよ！」

「えッ！」勘平は餘りのことに飛び上つた。でもそれは到底信ぜられぶいことだつた。「ほんとうかい。おいカテ？」

「何で嘘を吐くものかね。今、パレルモの杜からラミリオさんの死骸が届いたばかりなんだわよ。あ、あ……」

「えッ!?」驚愕に色を失つた勘平は泡を喰つて部屋を飛び出しながら云つた。「何処だ、何処だ？」

ラミリオは死してこそ掴むだ――とでも云ひそうな平和ぶ顔を見せて彼が居間の寝台に亡骸を横たへてゐた。逆上した勘平は、それでも戰く手に彼が誤つて刺したであらう胸の創痕をそつと覗いて見た。茲で大段目の如く「鉄砲傷には似ちよれども正しく刀でうがあちよる」証據に相異が発見されたら吾が物語はオヂヤンである。――だが吾が勘平はハン！と胸を突かれた思ひに、痛々しく眼を閉ぢて自己の罪科を認識した。彼は昨夜の寒さの為に風邪に冒されてゐた。発熱してゐた。恐怖――悔恨――失望――懐疑――然ふした思ひがごつたに渦まいて錯乱した頭脳の中で、取り逃がした一萬ペソが、灼熱した太陽のやうにヂリ〳〵と彼を絶望に燃き爛らせた……。

彼は、四辺の人が散つた隙を覗つて、ラミリオの小机から一挺のピストルを取り出して素速くポケットにねぢこむと、フラ〳〵と夢遊病者のやうに自分の寝室に退いた。……軈て一発の銃声が洩れて、呪はれた家の晝近い廊下の空気を脅かした。

間もなく愠場した警官によつて、勘平が書斉の机の上から一つの重い封筒が発見された。それはラミリオが昨夜、勘平当てに置いた彼の遺書であつた。……開かれた封筒から掴み出されたのが手の切れさうなチペソ紙幣十枚！

お、！綾野勘平逸まつた！

――で、今様山崎街道の幕は下りる。

（終）

NIPPON TRADING Co.
VICTORIA 727 - U.T. 38 MAYO 1642
賀正
正月元旦
日本商事
増山豊吉

賀正
田川清
ヴィジヤマリア

聖誕祭小景

江見利夫

白いテーブル・クロースの上に、林檎の紅い度が流れた。クリスマス・ツリーの無い聖誕祭の宵である。そんなものが無くとも、舊教の力は此の祭の日を絶ての人の上に意識させて、宗教の持つ敬虔と安慰とを食卓と云はず、皿と云はず、此の貧しい部屋一杯にさん〳〵と降り注いでゐるかの様である。

朱鉛で聖麺麭の破屯で小舟を造った私は靜かにシャムパン・グラスの底に浮べて見た。――それが何か神秘ふ未来えの暗示を與えてくれるのではふいかと思はれたので……

然し船は蒸発し切れふいで残された黄玉石の湖に、靜かな倒影を投げて遊水した。

林檎の皮は突然、妻の指先を滑って新しく歪先きに纏りついて行った。それを靜かな物腰で拾ひ上げた妻は、カトリック教と傳統の香のある民謡を歌った。

私はアドルフ・エルスの、そびいの靴を思ひ出して、此の歌がもっとロマンテイコに見え初めたのだ。

正月元日と懺悔節の火曜――年二回に行はれた奪略結婚の遺風と、そびいの靴、そんな聯想が私の凝視を更に妻の靴先に集中させて果った。

「まあいやな方ね、私の脚許り見たりして……」

水晶の首飾りが鋭い反映をみせて妻の顔が浮び上ると、軽い微笑が私の目許を退去した。

「だが、俺れはお前の脚なんか見てるんじやふいんだぜ。」

「どうせ、私みたいふ脚なんかはね？」

「あれだ……聖誕祭ふんで、そびいの靴を思ひ出してるとこなんだ」

「お気の毒様、私、そびいみたいに、主顯節（一月六日）の晩に靴なんか脫がないことよ」

「ねえ、レネ。俺は此の單調な晩に、燃らなくあのそびいの梱手紋になって見たくなったんだ。あの天使に、ね、良いだらう？　やってみ様ぢやないか！」

「お馬鹿さんね貴方は……」

「冗本気なんだよ、レネ!!　さあお掛けこっち大、こんな事でもしなけりあ、燃らないんだ俺は……」

「だって馬鹿ママしくって出来やしないわ。……未だ台所も片付けてないのに。……」

私は黙って妻を椅子に掛けさせると否諾なしに此の傳統的な役割を打ってのけたのだ。

「馬鹿ママしいわね。貴方。でも良いわ、私やるわ……然し明日の帰り間違ひないことね？」

「何だい明日の帰りたあ……」

「あれですもの……私の帽子!!」

「勿論ママ……さあ初めた〳〵」

「ぢやあ初めちやうことよ。思ひ切って……えーと何でしたっけ。あ、さうさう

"天使にも結婚が出来るの？"って"とこからね」

「出来ます。天使の様ふ顔をしてゐる人間を見付けた時に、その人と出来るんです。私は真面目ふ顔で強調を續けて行った。

「私に天使のやうふ顔を與へて下さい」

妻も最早そびいになり切って答えた。

「では接吻しなさい。さうすれば天使のやうな顔になるから」

「おそろしいわ」

「何うしておそろしいの？　あなたはもう娘ぢやありませんか」

「だってお母さんが云ったんですものね……」

「幼兒みたいに、何うしてそんふに顔へるんです。私に手を握らして下さい」

「握ったらいゝわ」

「何うして顔を隠す。……」

「はいだらいゝわ」

私は突然夏の太陽の様に燃える唇を妻に感じた。

私との結婚が失敗に終るなら必ず修道院に行くと決心した妻が今、如何に物憂しく如何に敬虔に見えたことか。

「エミリオ!!　私のエミリオ!!!」

私達二人は永久に離れつこないわ……え、離れやしないは、いつまでも〳〵……」

妻は鳴咽の中から叫ぶ様に泪に濡れ切った顔を私のそれから離さうともせず、抱擁し續けた。

可憐さうに私の試みた僅為救済のコメディアル、妻には殊劇かもしれないドラマの主人公だった。

お軍の聖誕祭の夜は、窓からコンアイラリーア・モリーノの赤い風車の廻轉を眺め乍ら送ったながら今宵はテアトロ・Cに逃い教会堂の一室に移って更に妻と靜かな晩餐をしたいものだ。

妻の仕付仕事を待つ間を、私はヴィーニアスの、"エル・スエニョ（夢）"を奏いてみた。

憂鬱も、予看も、人智も、苦腦も総て此の絃の中に没入して、そこから沸き上ってくる調音響に魂も身も溶けよと奏いてみた。

突然、夜の靜寂を震はせて裏の教会から荘重な聖誕祭の鐘が鳴り渡って来た。

私は敬虔に祈る妻を包む様に抱き、嚙ぶ様ふ接吻を彼女に與へて云った。

「ねえ、レネ。聖麺麭をもう一度食べてから寝やう。」

× × ×

（一九三〇・十二・廿四）

賀正　高橋常作

賀正　橋口喜平

漫然と

森崎健

ドスミジヨネスの幻影は年末の鋭角的気分を醉心地にする。この楽しい夢を現実化する選ばれたる幸福者は誰か？　そんな事は別として此の幻影的ホドスミジヨネスの年中行事と共にあらゆる方面に於て到時代的だつた一九三〇年が暮れてしまふ。而して林檎酒のわき立つ泡と共に一九三一年が生れる。このシヤンパン・グラスの底から泡の如く発生する一九三一年の最尖端を行くものは？……

× × ×

一九三〇年迄の尖端は何れも華やかなさつそうたる装をして登場する。怪奇にして奇抜、常軌を逸して駭目的ホ跳舞をしながら立ち現はれる。例へば青年男女の間でも今迄は二二が四、二三が六の常軌的であつたのが、全く二二が五とも二三が七ともなつたのである。また尖端的な女は唇の美容のために徒らに接吻したがつてゐる。彼女に取つてゴシツプ・モンガアの種にされるよりか、土衣に似合ふ日傘の色が、より以上心配なのである。

× × ×

ところがこの尖端は眞の尖端ではなくて浮動せる社会の表層に浮雲の如く浮び流れる尖端である。眞の尖端とは理智によつて創造される合宜的ホ新形態（生活その他あらゆるものを通じて）の斬新ホる創成なのである。それがどんがつてゐればゐる程、尖端の度が強くなり、超尖端にまで突き抜けるのである。だから尖端とは非常軌的ホものではない。例へば服装について云ふなら清潔と非贅沢と無装飾と合目的性とが生んだ極端に隙間のないカツチリした美が眞の尖端的なのである。

× × ×

新語「モダン・ボーイ」を発明した新井格は彼の尖端感覚を眞に尖端にする爲に、今またウルトラを発明したのである。発明といふよりも寧ろ流行させたのである。ウルトラとは「超」であり、「過」である。ウルトラ・モダン、ウルトラ・イデオロギーなど、使用するのである。

× × ×

一九三一年の尖端はこのウルトラに始まる。尖端が超尖端であらうものなら、それは錐の鋭い穂先のように鋭角的な筈だが、そうではなくて却つて人目につかない性質のものである。顯現的ホ存在ではなくて微量的ホものである。眞のウルトラは「これを見よ」と云はぬばかりに見得を切るような事はしない。また彼者のするように悲壮ホ壹詞と沈痛ホ表情をもしないのである。眞のウルトラは先づ沈潜する。そして時を得ておもむろに飛躍するのである。

× × ×

現在日本のプロレタリア文学は新進作家と或一部既成作家の左翼轉換によつて断然旺盛である。そのプロレタリア文学の本陣を形造るものは暴露文学が基礎を占めてゐる。ところがこの旺盛ホ暴露文学の発展振りは何うか？　今の日本の暴露文学はその暴露の対象が狭隘である。またその暴露の態度がリアリスチックでないと思ふ。十数年前、シンクレーアが北米ジヤーナリズム資本主義社会の大膽なる暴露を断行した。"The brass check" と "Mountain City" は暴露文学の彗星である。彼の暴露の対象は極めて広かつた。たが、日本にも一九三〇年に於て暴露文学の一大收穫があつた。細田民樹の「眞理の春」がそれだ。かくてプロレタリアートの意識が激情性とローマンチシズムとの時代を去つて観照、正視とリアリズムの時代に入つた。彼等は正確に資本主義社会の機構を藝術的にリアリスチックに暴露し始めたのである。一九三一年は此の暴露文学の時代ではあるまいか。単に経済的機構のみならず、政治生活の全分野に拡大された暴露文学の一大收穫があつて欲しいものだ。

× × ×

若き「詩人の群」とも云ふべき新興詩壇に活躍する人々がある。北原白秋老ひ、西條八十民謡に走る時、若き詩人は超現実派の分野にあつて熱心に藝術の道に突入してゐる。彼等は詩のクオータリー「詩の詩論」を発刊して新らしい詩の陣営を確立したのである。かくて超現実主義は若き詩人の間に認知され受容れられたのである。上田敏雄の「假設の運動」春山行夫の「植物の断面」。北園克衛の「白のアルバム」等々。北川冬彦の詩にこんなのがある。

大軍叱咤

「将軍の股は延びた、軍刀の様に。毛むくじやらの脚首には、花の様ホ支那の賣淫婦がぶら下つてゐる。黄塵に汚れた機密費」

一九三一年は彼等若き詩人の活躍の年である。私は彼等の成長により深い斯待を懸けてゐる。

× × ×

西野氏が再来亜されて時報紙が急に賑かになつた。日本での新らしき積荷をこの時報紙の上に封切りして一九三一年の文藝界を超尖端的にして戴きたいものだ。要生氏の「重殺」は近頃の大作だつた。私はこれ等の人々のよりよき作品を出される事を待つてゐる。（完）

吉川六郎

恭賀新年

在東京
兵頭透

喪中に付　年賀の禮を缺く
コルドバ市
伏見秀次
伏見八郎
伏見義雄

彼女の最后

大有浮木

彼女の最后が来ました。彼女は今署所に曳かれて来た羊も全しです。三ヶ年半もの間私と苦楽を供にして来た可愛い彼女です。その彼女がいた〳〵しい姿で私の眼前に曳かれて来たのです。だが私は溜息をして涙を流すだけで、それ以上彼女のために何一つ出来ないのです。これも彼女の定命でせう。何卒無責任な私だと責めないで、斯うなる迄の彼女の身の上話を一つ聞いてやつて下さい。

彼女が生れたのは今から丁度三十年前、西厂千九百年、長い冬の雪もやつと解けて、これから草木も新しい芽を出さうといふ四月でした。所は英国。地図を拡げて御覧なさい。北海に面したウサーヤ河の河口、詳しく申しましたら北緯五十四度五十二分、西経一度二十一分、そこに太文字で、Sunderland と書いてあるでせう。北部イングランドでは一二を争ふ大きな町で、寒さと、煙突と、煤煙とで有名な町です。此の煤けた騒々しい工場で彼女は生れたのでした。そして"バンカ"と命名されたのであります。

彼女は生れ落ちた時から、既に他の者と違つてゐました。或る人は彼女は不具だと云ひました。然し新学説に依つて生れた彼女なんです。それだけに余計に世間の人の注目の的となつたのです。

彼女は直ぐP&O汽船会社で使はれ、母国から印度方面を盛んに往復する事になりました。茲に謂ふ彼女とは船の事であります。

総屯数六千二百十六屯、長さ四百六十尺、巾五十一尺四寸、速力十二節、今でこそ一万屯二万屯の船が、ザラに出来ましたが三十年前の其の頃六千屯の船と言へば大きい方の部類でした。

地中海、印度洋等を走る珍らしい型の新造船の彼女の姿は、時代の尖端に一異彩を放つて居たどらう事は想像に難くないでせう。

星移り月が変つて彼女も一つ二つと年を重ねて行きました。東洋には日露戦争が起りやがて又世界全体を動かした欧州大戦が起りました。彼女は独乙の潜水艇や、エムデンに脅かされ乍らも相変らず印度の航海を続けて居たものでした。

やがて戦争も済み、平和の光が地上を照す様になつた時海運界には不景気が次第にその深刻度を加へて来る様になりました。そして大正十二年がやつて来ました。其の頃彼女は、度々日本へ来る様になりました。門司や神戸で印度綿を揚げて居る彼女をよく見かけたと時々舟乗りの話に出る事があります。

二十三になつた彼女は大部航海に疲れてゐる模様でした。P&O汽船會社では次々に新しい船を造つたし、彼女の痛ましい姿と、妙な格好に嫌気がさしたのでせう、それに世は不景気に向つて落ちて行く時でしたから、彼女を売る事になつたのです。

彼女の売られた先は英国からは遠い日本でした。日本へ買はれて来た彼女は新しく日本流の名前をつけられました。「大有丸」と。

持主が代り、名前が変り、お化粧まですつかり変つた彼女でしたが、たつた一つ、アンダー・ブリッヂにあるブロンズの時鐘には "SUNDERLAND" と赤文字で昔の名前が刻まれたまゝでした。そして夜となく晝となく冴えた音を出して乗組員に時の来た事を知らせて居るのでした。彼女の身代金は十五萬円だつたとの事、引渡がすんだのは八月でした。そうして九月にはあの関東の大震災でした。彼女は日本へ渡ると直ぐ震災に悩む三百万の人々の為健気に働いたのでした。神戸から救恤品を山と積んで横浜へ第二着の船として入港したのです。

罹災民救済も一段落を遂げ、帝都は次第に復興して行く時、彼は怒濤逆捲く太平洋を往復して居たのですが、よく持つたものだと今になつて考へます。

北米から小麦を積んで日本へ帰る途中、アリューシャン群島の北ベーリング海を走つて居る時でした。北太平洋でも珍らしい大嵐に出遭つたのです。北太平洋の嵐と言つたら舟乗りは一ペンに縮み上る程で世界でも有名な大嵐のある所ですが、そこでまた珍らしい大嵐に遭つたのですからその時の大時化がどんなに凄いものだつたか一寸想像もつかぬでせう。此の大時化に巻き込まれた彼女は、それこそほんとうにみじめなものでした。大浪がやつて来て舷を叩き、デッキを洗ふ、烈風はマストに唸る、まあそれ位だつたら良いのですが、不幸にも舵を浪に取られて仕舞つたのです。

これではどうする事も出来ません。杖をなくした盲目さんの様ふんです。嵐は静まらないし、船はドン〳〵流されると云つた具合です。大浪は間断なくデッキに打ち上げます。モータールームがやられました。救を求める事も出来ません。否次の浪は終にライフボートを浚つて行きました。駄目です。次には彼女の最後と

事が出来ませんでした。レッドを投下して海の深さを計つて見ると二十尋、まだ深い。陸地はまだ遠い。彼女は走り續けました。それから物の三十分も経つか経たないのにドーンと大きな音が船内に響きました。乘組員は一斉にハッとしました。今の音は何だらう？と大きな疑惑を皆の頭に浮べたのです。一秒……二秒……三秒……人々は漸くさつきの不思議な音を何んでも無かつた事の様に忘れ去らうとして居る時、クロノメーターが正に四秒目へ行かうとする時に、あの東京の大震災の時よりも烈しい勢で震動したのであります。そしてメキ〳〵ギシ〳〵と、丁度歯医者へ行つて、奥歯を削つて貰ふ時の様な無気味な軌みが起りました。乘組員は殆んど無意識に附近の物にしがみ付きました。そして彼等の顔色は血の気を失ひました。たゞ目だけが血走り、まるで悪魔が乘り移つた様な形想になつて、次の瞬間には何物も放つてデッキへ飛び出しました。無気味な振動と軌みは間もなく止みました。船の周囲は相も変らず悪魔の羽根で蔽はれて咫尺を辨じないのです。彼等は今になつて始めて『ヤッタナ!!』と感じて幾分か我に帰りました。だが顔色だけはまだ血の気がありません。

「フール・スターンの命令と共にエンヂンはすばらしい音を立て、逆廻轉を始めましたが、何せ十浬からの全速力で、ハズミのつき切つた六千屯もの巨体が岩石のない砂浜に喰ひ込んだのですから今更弱いフールスターンの力位いでは船がビクともするものですか。

彼女に致命的の大事件を惹起させ、人々を極度に興奮させた濃霧は知らぬ顔して折から吹いて来た風に何処ともなく消え去りました。何と皮肉な悪魔の翼よ。手の届きそうな所に木が茂り、砂浜が拡がつて居ます。彼女は此の砂浜に四十五度位の角度で斜に乘せ上げたのです。

沖に二丁の錨を降ろし、これを艇のウヰンチで巻き乍ら船はフールスターンをかけて引き降ろし作業が始められましたが、悲しい哉不成功に終りました。

やがて日が西に沈み、宵闇が迫ると悪魔の悪戯が始まりました。晝間の濃霧に引き替へ、夜は嵐、そして間の悪い時は仕方のないもので、その時化は沖から陸地へ吹き寄せて来るものでした。大きな浪は恐ろしい力で彼女を差し上げ、次の瞬間には海底の砂の上に叩き付けたのです。天地も覆へる様な動揺と、今にも船体はバラ〳〵に壊れてしまふ様な軌みとは夜通し續きました。彼女の苦痛、それは私等が此の世で受け得る苦しみの数十倍、数百倍あつたでせう。

分計が八九回廻はつて朝が来ました。嵐は日の光を恐れでもするかの様に、スーッと逃げ去つて仕舞ひました。人々は自分達の生命が、日の輝きに依つて救はれたかの様にホッとし、頬に赤い血をみなぎらせ乍ら太陽に感謝の顔を向けたのです。

然し、朝日に照し出された彼女の悲惨な姿を見た時に、人々は再び以前の暗い顔に戻らざるを得なかつたのです。何とみじめな彼女の姿！昨夜一夜の嵐は彼女を砂浜に眞横に叩き付け、今にも横へ轉げそうに傾けてしまつてゐるではありませんか。彼女は赤い船底を朝日に照らされながら、死んだ鯨の様に其の巨体を浜辺に轉がして居るのです。「これが彼女の最後か」……人々は誰れしもこう考へました。だつて海の上でこそどんな嵐とも戰ひ得る彼女も今は陸の上に叩き上げられて居るのですもの。

お晝過ぎになつて小樽から帝国サルベージの來島丸が来ました。乘組員はホッとしたのです。だが！彼女は果して救はれる事が出来るでせうか？

サルベーヂ・ボートの技師は遭難と其の後の詳細を船長から聞いて居ましたが、一通り聞き終るとグッと一息入れて落着いた調子でおもむろに口を開きました。

「時化で乘り上つた船、それは時化の時になつて降すことが出来る、今後何日かは前より大きな時化が来るに違ひない、其の時が此の船の再び浮ぶ時だ！」と。すつかり陸地に叩き上げられ、砂地に深く喰ひ入つた彼女、それが救はれる道は前より大きな時化が来た時だと、痛ましくもやつれ果てた彼女、ホンの少しの風にでも、直ぐバラ〳〵に壊れそうな彼女、それが次に来る、前よりも大きな時化に遭つたら？イエイエ、私達はその次の大きな時化が来る時まで彼女の身体が持つかどうかさへ怪しんでゐるのです。

海上平穏を祈るべき筈の舟乘りが大時化を待ち望む……とは何と矛盾した話ではありませんか。陸上には天幕が張られ、衣類食糧品も運び上げられて、此処にカッパ連が陸の住ゐをなし、予看した願ひを抱いて、あてもない次の大時化を待つ事になつたのです。

退屈な日が續きました。一日、二日、三日、十日と……。彼女にはもう死の腐敗が来たかの様。舷側には青い海草が生え、白い小さな牡蠣が附き、そして其等の間には無数の小海老が泳ぎ廻はる様になりました。

小波にモヤ〳〵と揺れる青苔、まるで水死人の頭髪を思はせます。いやですね。斯ふして二十日待つても大時化はやつて来ませんでした。

ソロ〳〵会社の方が痲痺を切らし始めました。彼の女を此の儘放つて置こうと言ひ出したのです。

愈々明日は全員引き上げとなつたのは乘り上げてから丁度一ヶ月目八月十三日の事でした。乘組員も行李をかつぎ出して衣服類や其の他の持物を纏め始めたのです。明日はいよ〳〵彼女ともお別れかと、お互ひが心の底に悲哀を感じ乍ら……。其の日も静かに暮れて行かうとしました。

ところが、今迄水平線の彼方を見詰めて居たサルベーヂの技師の眉がピリッとホンのかすかではありますが動いた様でした。そして其の次の瞬間には顔面に新らしい血が踊り眼は一層輝を増した様です。

一体何が彼をそう感動させたのでせう？

彼の目を追つて水平線の彼方……大、そこには一点の黒雲が！嵐の前兆の黒雲が、あるではありませんか。吉か？凶か？

全員引き上げとは言つても嵐に対する戰闘準備はまだ解除されずにありました。今まで鼻唄かなんか歌つて居た人夫共は急に右往左往し出しました。彼女の煙突からも眞黒い煙がモク〳〵と昇り始めました。だが、そう急に嵐は起こらないものと見えます。周囲はシーンと静まつて居ます。嵐の前の静けさとでも言ふのでせう。不気味な程の静けさの中に太陽は西へ沈んで行きました。

軽風が和風と変り、和風から疾風に、水平線上にホンのチヨッピリ見えて居た黒雲はもう大空一面を蔽つたのでせう。星影一つ見えません。舷を打つ浪の音が高くなりました。浪頭は白く砕けて押し寄せて来ます。だが彼女はまだビクとも動きません。

刻々に風は強くなつて行きます。疾風から雄風に、そして強風と変りました。ヒューッと木立やロープステー等は悲鳴をあげ出しました、と同時に彼女も少しづゝ揺れ出しました。

強風はやがて疾強風、大強風、全強風、暴風と変つたのです。あらゆる物を吹き飛ばす程の強い風、当る物は何物をも粉砕せずには置かない様な勢の浪。彼女は此の浪と風とにもまれて恐ろしく動く事。

矛看した願ひが今達せられたのです。サルベージの人夫達は此の期を逸せず懸命に彼女の救助に努力しました。……

朝が来ました。太陽が輝かしい光を東から投げてゐます。海岸には幾万とも数知れない小石と、何を唄くのか絶えず小石と饒舌り續けてゐる連。それだけ。彼女は？救はれたのでした。

痛ましくもやつれ果てた姿ではありましたが、生還の喜びに踊る胸をゴト〳〵と響かせながら帰途についてゐるのでした。

それから彼女が笠戸島の船渠で一ケ月余もかゝる大修繕を施されたのは無理もありますまい。七万円の巨額と一ケ月の日時を費された大修繕もサマルガの惨事で骨の髓まで痛めつけられた彼女の身体はドウしても元の様には恢復出来なかつたのです。でも金の爲め働かなければならない彼女でした。弱々しい身体を引きずり乍らも太平洋の怒濤とも戰ひました。大西洋の激浪に弄ばされた事もあります。

ある時は灼熱の印度洋、紅海をあへぎ乍ら走りました。又或る時はオーロラと氷河と熊とツンドラのアラスカへ行つた事もあります。勿論そうした航海のうちに、彼方の岩角、此方の浮標にと彼女の身体をブツ付けた事は再三あつたんです。

彼女の身体は目に見えて其の終局の来た事が知られたのです。斯んな涙ぐましいエピソードがあります。

昨年の話ですが、彼女が雪のシベリア、ウラジオストックから大豆を満載して暑い印度洋を通り、西欧の見ぬ恋にあこがれて生徒さんが泣く Minikoi の燈台も過ぎ、淡の瀬戸の Bab el Mandeb も通り、地中海に這入つて間もなくの事でした。大きな時化に出逢つたのです。西北西の大強風はまるで彼女が前進するのを拒むかの様に眞艤から吹きつけるのです。紺壁の海面は白泡に変り、怒濤は悪魔の牙の様に尖り彼女を一呑みにもしかねない勢で押し寄せて来るのでした。ベルギーの一船は西班牙のバレンシヤ附近で半強しました。弱り切つた彼女に何事もなければいゝがと皆心配しました。海図室に安置されてあつた金刀比羅様の御札の塵も拂はれました。ところが矢張り駄目でした。燃料炭艙の舷側に穴があきました。それともう一つは、二番艙の汚水が一時間に二吋づゝ増水してゐる事でした。翌日になつて発見されたのです。

バンカーハッチのサイドの穴は木の栓や何かで直ぐ閉がれましたが、手がつけられないのは二番艙です。大豆が一杯積んであつたんですからね。一時間に二吋づゝ増水すると云ふ事は一時間に七十二石九斗六升の海水が艙内へ這入つて居るのです。これ位ゐの水でしたら船のポンプで排水したら水が多くなつて沈没するなんて、そんな心配はないんですが、浸水が大豆に浸み込んで、大豆が膨脹し、船体が張り裂ける……「大豆が鉄板を破る？」……なんてお笑ひになるでせうが、僅か一握りがそこらの大業が、其の膨脹力によつてどんな威力があるか御承知でせう。あんな屁の様ぶ更斯にさへ山を崩す力があるのですもの。まして一杯詰められた艙内の大豆がふくれてサイドを張り裂く位ゐは易々たるものです。若し不幸にして舷側が張り裂けたら前にも増して海水が這入つて来るでせう。そして其時こそ船のポンプで汲出しきれなくなる。而かも船は浮力の許す限り荷物を積んでゐるのですよ。浮力が減つたら……其処には当然沈没がある許りです。

免に角水面下九尺の所で一尺四方の穴が開いたら一万屯のでつかい奴でもやがては海の底へ行くべき運命となるのですからね。

此の事件は極度に乗組員を緊張させました。

今まで赤く錆て居た大工の Sounding rod は毎時汚水を測るので白く光つて来ました。

アツー！遂々汚水が豆腐臭くなりました。

其の後次第に時化は凪ぎて行きました。地中海、ビスケー湾等を緊張と不安に満ちた乗組員を乗せて彼女は航海を續けました。幸ひに彼女の腹は揚げ地へ着いても裂けませんでした。荷物は次第に人夫の手で陸へ揚げられました。百三十袋の大豆が海水にぬれて居ました。「汚水浸入の原因は舷側の鋲が一本抜けて其の穴から浸入したのだ」と大フイサーの一人が説明して呉れました。そして其の後に附け加へて「オイ、二番艙へ行つて見ろ、海水が這入つて鰯が泳いでらアー」と。私も急いで行つて見ましたよ——一匹の鰯が穴に近い袋にペシヤンコになつてクツ付いて居たのを——……安全が確保されたとなると「ナーンだ、大有鳴動して鰯一匹がハハ……」と腹の底から笑つたのです。

今までの心配で張つて居た胃のこりが一ペンにけし飛んでしまふ様に……。其の後春が来、秋が去り、そして又の夏が春に次いで訪れて来ました。

今、彼女は疲れ切つた身体を、それでも檣上に万国旗を飜がへし乍ら大阪へ入港して来たのです。これが彼女の最后です。鉄屑として買はれた彼女の代價は八万円だと或る人は言つてゐます。

三年半も馴染んだ彼女、私の船が今日此の港を出帆したらこれが此の世での見納めとなるのですが……そう考へると何かしら目頭が熱くなるのを覚えます……だが私は彼女の爲に喜こんでやりたい。

トランクだの、鯨だの、潜水艇だのと、見にくい格好から色んなニックネームを貰つて居た彼女なんです。ドウセ満足でない彼女の格好は不態ふ最後に彼女を導くだらうと恐れられて居たのでしたもの。

（終り）

Japanese Silk Supply
DE S. OKABE
CHILE 910 5º Piso Der.
U.T. RIVADAVIA 2349
謹賀新年
一月元旦
岡部壯一

賀正
一月元旦
久慈忠

小説　或る夫人

河野繁子

それはすっきりと晴れた初夏の朝だった。

鏡の中の洋子の顔はほんとに美しい。それで彼女はいくらがはしやいで、パリー製の粉白粉をあたりに飛び散らせ乍ら熱心にパフを動かしてみる。

鏡越しに彼女はベッドの上に起き上って爪を切ってゐる夫の姿が見へる。

「お行儀が悪いことよ！　起きたらさっさとピジャマをおぬぎなさい」

「起きるんぢやない、まだ一眠りしなけりや……」

「あきれたわ」何時だと思って？」

「まさに午前十一時四十分！」

「憎らしい！　あなたみたいにだらしない人、みないわ」

彼女は心憎いまでに洗練された怜悧な近代女性である。

——僕の崇拝者なんだから——

と彼は得意らしくほゝゑんだ。

彼女はB・C夫人の踊りについて鋭い批評をする。ハスミンの香りが絶えず僕の胸にこぼれる。劇場を出る。そのまゝ別れてしまうのは残念だし第一彼女がそうはさせまい。で下街を散歩する。丸ではなやかな悪人同志の様ゝそしてそこいらでお茶をのむ。

「こんな幸せ、夢の様ですわ」と上品な媚びを示して云ふだらう。ダキシイで送って近い面会を約し別れる——こんな風に敏夫はとりとめもなく空想をたのしんだ。

「ねえ、T劇のB・C夫人の舞踊会に連れてって下さらない？」

食卓で妻にそう云はれた時、彼は内心はつとしたが極めて自然に

「僕もそう思ったんだよ。しかし生憎K氏の出版記念会があるんでね——」と答へてソッポを向いた。

× × ×

桃色の雰囲気がそこに充ちてゐた。

「お待ち致しましたわ」と云ふはずむ声と、つゝましやかなほゝゑみに敏夫は迎へらるべき筈だった。

「こんでもない。この変妻家の僕にそんな事を云ふ奴があるか」

鏡の中で敏夫は洋子にらむ真似をした。

洋子は声をたてゝ笑った。

「そう？　だって男って一度に何人もの女を愛せるらしいわ。どんな男でも浮気ものよ」

「僕もそうだってのかい？」

「そう思ったら間違いなさそう」

「ひどいや、憤慨するな」

「ちやほや」と洋子は二本のパフを動かす手をやめて云った。

「信頼して上げてもいゝわ」

——が、敏夫は彼女のその信頼を裏切ってしまった。

シネラリアの赤い花が摘みかけた頃のある午後、敏夫は一通の手紙をうけた。フランス封筒でハスミンの匂ひのする。ひどくお洒落な手紙だ。

封を切ると書簡箋の中から白い切符が一枚おちた。

〝はじめ〟「愛の小鳥」を発表なさいましてから一方ならずお作を愛讀してゐます。お目にかゝりたいと云ふ願ひは許されぶいものと御座いませうか？　思ひ切って×日のB・C夫人の舞踊会の切符をお送り致します。そして私一人で切に御まちうけして居ります。

何卒悲しい失望はお与へ下さいますな〟

彼にとってこれは最初の女性からの手紙だった。それも、その女性は地方の文学少女や女学生ではない。

突然のローマンスの訪れに他愛もなく彼は悦に入った。あの朝の洋子の会話は思ひ出しもしなかった。

どんな男だって浮気者よと云った彼女の言葉も、既に証明してしまったのである。B・C夫人の舞踊会はそれから三日後催されるのだ。

その三日間の間、彼は実にほしいまゝな空想に捕はれた。勿論そこに描くハルミと云ふ手紙の主の女性は若くて優れて美しい。T劇場で逢ふなんて高ってよこすのは容貌に深い自信があるからだ。と云ふ信念が彼を満足させた。そして、その名や筆跡やフランス封筒やハスミンからおして彼女は心憎いまでに洗練された怜悧な近代女性である筈だった。

——僕の崇拝者なんだから——

彼女はB・C夫人の踊りについて鋭い批評をする。ハスミンの香りが絶えず僕の胸にこぼれる。劇場を出る。そのまゝ別れてしまうのは残念だし第一彼女がそうはさせまい。で下街を散歩する。丸ではなやかな悪人同志の様ゝそしてそこいらでお茶をのむ。

「こんな幸せ、夢の様ですわ」と上品な媚びを示して云ふだらう。ダキシイで送って近い面会を約し別れる——こんな風に敏夫はとりとめもなく空想をたのしんだ。

「ねえ、T劇のB・C夫人の舞踊会に連れてって下さらない？」

食卓で妻にそう云はれた時、彼は内心はつとしたが極めて自然に

「僕もそう思ったんだよ。しかし生憎K氏の出版記念会があるんでね——」と答へてソッポを向いた。

× × ×

桃色の雰囲気がそこに充ちてゐた。

「お待ち致しましたわ」と云ふはずむ声と、つゝましやかなほゝゑみに敏夫は迎へらるべき筈だった。

が、それらしい姿も見えない。「少し早やすぎたかな」しかし十二度も時計を見て、どうく〳〵夢があるまでハルミの姿は見えなかった。

焦燥が胸をやいた。彼はもう腰立たしくさへなり出した。ステージはがらんの様なフット・ライトをあびてB・C夫人が踊ってゐたが彼には全くうはの空だった。

よほどしてから彼は自分の方へ近よってくる女を見た。

女は彼の隣に腰を下した。

「お待たせしました。妾ハルミよ」と小声でさゝやいたが、それはまぎれもなく洋子だったのである。

敏夫は息がつまりそうであった。その耳元で彼女はそっと、然し力強くはつきりと云った。

「覚えてらして？　いつかの朝のこと、もう信頼してなんかあけないわ……」

敏夫の脳理には初めてあの朝の事がフラッシュ・バックになって蘇った。

それからと云ふものは敏夫はどうにも洋子に頭が上らなくなった。

そして一週間はかりはいやにガイルの味がするサラダだの、馬鈴薯がこなれてゐないコロッケだのばかりを食べさせられた。

「共犯者、誰だったの？」

と聞いたのは、もう暫くたってきまりの悪さが薄らいだ時だった。

「共犯者？」洋子はおかしそうに笑った。

「あの手紙を書いたのならS子姉さんよ、がう見えて妾ずいぶん頭がいゝのよ」

S子！　もう二人の子供のママであるところの彼女の姉のやせた顔を思ひ浮べて彼はくすぐったく苦笑した。

——一九三〇・一二——

〝詩〟　無題　繁子

清浄ふる空氣に
純白に輝いてゐた
美しい蠟細工の乙女像は
十二月の炎熱にとろけて
しまつた
今はだらしなくとけた白蠟から
何時の日に又美しい
乙女の姿が
この白日に輝き出でやう
かつての日、神の如くにたゝへし
乙女像はあまりに果敢ふく
十二月の陽は今
あまりにもまぶしい……
あゝかくて我が青春も
逝かんとす……

一九三〇・十二・一〇夜

賀正
一月元旦
岡田芳太郎

創作 奥釣る人

狂自生

翠色の長々しい枝垂れ柳ぎがゆらゆらと河風にゆれると、コスキン川の河面には時ならぬ小波が起こつて、小さな波紋を画いては河下の方に消へて行く……。

河向ふのチャレーのヴエンターナから彼女が半身を白いカーテンにかくして顔だけ出して戸外を眺め出すと、何時もすき透る様な声で騒がしく叫ぶ、足早やの新聞賣りまでが足をとめる――。

青い柳と澄み切つた河水の眺めを前にして建てられた、緑りが丘――未だ名前はないが、少くとも私はあの丘をそう呼びたい――のチャレーにあの女が来たのは もう二ヶ月も前の事であつた。

パン・デ・アスーカル山の麓に夕陽が少し残つて、河傍たに薄く夕焼けが反射する頃――は何時も彼女は窓から美しい顔を出して、痛ましげに戸外を眺めるのであつた。

『未だ出て来ないかなア……』

と独り言を言つた岩田は、何気なく一寸河向ふのチャレーの方を見たが、直ぐ気がついて餌をとられた長い釣り棹を引き上げて、一つ「チエツ!!」と淋しく舌打ちをした。五六間離れた岩角には、毛唐のムチャチョ達が四五人釣りを垂れて暮れ行く初夏の夕陽に顔を赤くほてらしてゐた。

ブエノス・アイレスで眞面目に商店に働いてゐた岩田が、医者から肺病と診察されたのは今年の六月の初め頃であつた。それから淋しい怡しい生活が此のコスキンのSペンションで繰り返へされてゐるのであつた。

友とてもなく、只こゝの美しい景色や、青々とした河端の柳や色々な面白い山の姿や、よく澄んだ水の色などが、いくらか岩田の心を慰めて呉れるよい友の一人であつた。

ブエノス・アイレスから来た一ヶ月余りと言ふものは何だか深い物思ひに沈んで、一層のことあのコスキン川の鉄橋の上から一と思ひに飛び下りて自殺して遺らうかとさへ考へた事もあつた。ある時なぞ、両の晩に外套の襟をたて、河端を一晩中歩き廻わつた事などもあつた。

そんな淋しい生活が、益々彼の神経を鋭敏にして心を焦らだ、せてゆくのであつた。

『裏切り者奴ッ!! 畜生!! 今に見ろ!!』

と、幾度灰色の夕空をペンションの窓から眺めながら殆んど無意識に叫んだ事よ。初心な生一本の男だけにその内面的な苦痛は余りに重く病状は益々悪化して行くのみであつた。

九月頃だつたか、――毎日診察に来る医者さへ、もう一ヶ月は六つか敷しいだらう――と首をかしげてゐた。

『それがよくも助かつたものだ――だが而し、まさか彼女が此のコスキンに来てゐるとは思はなんだ……』

と岩田は釣りの事などは忘れて仕舞つて考へ込んでゐた。

毛唐さん達ちの帰つた事や、河向ふのチャレーに電燈のついた事なども知らないで、すつかり我れを忘れてゐた。

二

ある愉快な晩であつた。

『ねえ、マリア、ほんとに貴女は僕を愛して呉れるんだねェ――若し僕が病氣になつたとしても――独立が出来ないで此のまゝ一介のエンプレアードで終るとしても――また不幸にして自動車にひかれて片足失つて、人の門口で物貰ひをする身分になつたとしても――ほんとに君は僕を見捨てないんだねェ……』

シネの帰りの自動車の中で、岩田はこんな冗談見たいな事を、聞いた事があつた。

『……イワタ、あなたは何故そんな事を言ふの……いくらアルヘンティーナだつて一度誓つた恋に偽りはないわ……』

と云ひながら何時の間にやらマリアは岩田の手を握りしめてゐた。

『……』

岩田はその頃が一番幸福であつた。

『そうだ、俺はマリアと早く結婚しよう、そして日本から資金を貰つて来年は独立する事だ。それが俺には一番幸福な事だ。そしてそれが一番人生の意義ある――いゝや俺のために意義深きことだ。ウン少く共吾れ岩田なる男の最高の生活だ……』

と、マリアに手を握られて夢の園の幻しを追ふもの、様に微笑みながら考へ込んでゐた。

それから確かに二ヶ月目の曇つてゐた晩だつた。岩田は下宿で血を吐いた。下宿屋の親節は急いで知人の醫者を呼んで呉れた。

醫者は丁寧に診察して呉れた。そして気の毒そうな顔をして言つた。

『……シエラ・デ・コルドバに行くんだね、二年か三年かゆつくりとね……』

『……』

岩田は黙つて目を瞑つてゐた。

翌日はマリアが見舞ひに来てくれた。岩田はマリアに風邪を引いたが何んでもないと云つた。マリアは安心して持つて来た花束をメサ・デ・ルースの上に置いて、それから岩田の頬にキッスをすると、軽い足取りで出て行つた――早く岩田の病気全快を祈りながら……。

その翌日も、翌々日も、マリアは見舞ひに来て呉れた。来る度びに少さい花束を持つて来て呉れた。岩田の部屋の中は何時も花の匂ひで気持がよかつた。

岩田はどうしても肺病である事をマリアに打ち明ける勇気が出て来ふかつた。それは如何に信頼はしてゐても、肺病と打ち明けたら吃度彼女は来なくなるであらう――と思つたからであつた。

五回目のヴイシタにマリアは何時もより美しい大きな花束を持つて見舞ひに来て呉れた。彼女は花束をほどいて何時もの様に花瓶の水を替へて、岩田の枕もとの車の上に置いて呉れた。そして柔かい手で僅か十日計りの病気でげつそり痩せた岩田の額際の髪の毛を撫であげてやつた。

目には涙が溜まつたよ。

『……イワタ早く治つてねェ……妾独りで淋しいわ……』

と云つて岩田の頬にキッスをした。岩田の頬にはマリアの涙が一二滴こぼれかゝつた。

『……』

岩田は何か云ほうとしたが、目から涙が溢れて来て何も言ふ事が出来なかつた。

瞬間!! 岩田は咳き込んで来た。何だか咽喉に引つかゝつてゐる様に思はれて二度、三度強く咳きを續けた。傍にゐたマリアは急いで岩田の脊を撫でゝやつた――が――それがそもそも悲劇の幕の序幕？であつたのだ。

CAFE BAR BILLAR
"Tokio"
謹賀新年
梶山島圖
一月元旦
Calle Belgrano 502
U.T. AVENIDA 4614

賀正
田中数好

賀正
楯岡實

妙に咳き込んだ岩田は遂々二度目の吐血をノーヴィアの前でやつたのだ。

血をぶきは飛んでマリアの絹の白いポジェーラを赤く染めた。

『……』

『……』

マリアも岩田も黙り込んだ――暫くするとマリアは悲しそうな顔をしながら帰つて行つた。

『それが彼奴(アイツ)とのお別れだつたのだ。――それから彼女(アイツ)は到頭来なくなつた……』

四辺(あたり)は夕暗みに迫まられて、もう薄暗らかつた。

クルス・デル・エヘエ行きの夜汽車が鐵橋の上を勢よく走つて行つた。

岩田は未だ座はつてゐた。夏の夜の河風は時々音をたて、岩田の頬を冷たく打つた。

三

夕方になると、娘達ちは皆んな街路樹の下に椅子を持ち出して、道行く男の品定めに余念がない。

男達ちは――男達も矢張り女のスカートの色合ひと長短を標準に、色気たつぷりな點数をつけて嬉こんでゐる。言はゞ夕方は若人達のみ許された嬉しい時間である。

ペンションの窓から岩田は毎日街路を眺めてゐた。

撒水車の通るのや、金持ちが宝玉の様ふ自動車で滑る様に走つて行くのや、古物展覧会で一等賞問違ひなしと言つた様な廿年程前のフォードの古自動車が走つて行くのや、何時も呼び声のよい新聞賣りなどが走つて行くのを只譯もなく眺めてゐた――。

思ひがけない警笛が町の四ツ角で聞いたと思ふ間もなく一台の素敵な自動車が岩田の居る窓の下を通り過ぎた。

岩田は何気なしにその方を見た。

『スヤツ!! リンコルンだ、素敵ふアウトだ――ケーリンド……』

と噸狂ふ声で叫んだものがあつた。それは同じペンシオニスタのアントニオであつた。

車の運轉は未だ廿五、六歳位ゐな粋な男がしてゐた。卵色の麻の夏服を着て髪は奇麗に分けてゐた。その横に純白の絹のベスティードを着た美しい婦人が、その男に寄り添つてさも嬉しそうに何か話しかけてゐた。

岩田は『スヤ!!』と叫ぼうとしたがハツとして口を閉ぢた。

『ハテ確か見た事があるぞ!』と心の中に思つたその時。

『セニヨール・イワタ……』とすぐ近くで呼んだものがあつた。岩田は振向いた。後ろにはペンションの親爺がニコ〳〵して起つてゐた。人の好い親爺は傍にあつた椅子を引き寄せて、それに座るとぽつ〳〵と岩田に話しかけた。

『……今通つて行つたあの美しい自動車を見たかね、あれに乗つてゐたのは十四五日程前に来た、ホラあの河向ふのXチャレーの若旦那だよ――』

と云つた親爺は自分の指を折つて何やら数へ始めた。

『……ウンそうだ、今から丁度八年前の事だ。未だあの若旦那が子供の時に肺を病んで俺のペンションに養生に来たことがあつたのだ。――もつとも其の当時はペンションも二ツか三ツ位ゐで、ホテルもチャレーもなかつたから喃ウ――そうだ二年近くも俺のペンションに居たであらうか。その後良くなつて、ブエノス・アイレスの学校に通つてゐたんだ。

それが一昨年学校を卒業すると、ヨーロッパへ行つて遊んで居たが、今年の六月にフランスから帰つて来ると、すぐにブエノス・アイレスのある醫者の娘で――名前は確かマリーア・アグス……チーナと呼んだかの――免に角今年の十月に話がまとまつて結婚したのだ。何んでもブエノス・アイレスではその娘の家とは隣、合せて居るそうだ……イワタあんたは知つて居りますか、サンタ・フエ街の千六百××八番地の大きなあの古い建物の家を……それがあのフエリスと言ふ若旦那の親爺の家なんだ。ほんとにあの人達こそ幸福だね……』

と親爺は問はず語りに喋舌りたてた。

岩田の顔色は見る〳〵うちに土色になつた。

口一杯毒をかみしめた様ふ顔をした。

『サンタフエ街一六××八番の隣りの家――醫者の娘――マリア・アグスティナ――六月×日に血を吐いてから一度も姿を見せなくなつたマリア――電話をかけても居ないと言つて取り合はふかつた彼奴(アイツ)!! フム、そうだ間違ひはない……』

× × × × ×

『……矢張り彼女(アイツ)は俺を愛してゐたんだ――彼女(アイツ)が悪いんじやなかつた。彼女の親達ちが俺達の中を割いて、あの若僧に押しつけたのだ。――無理はない、三年越の恋だから喃ア……而し彼女は驚いただらう……変り果てた俺の姿をあの鉄橋のかゝり口で半年振りに見た時は……』

日は暮れ果て、頬打つ風は冷たかつた。

釣り綽は倒れたまゝ、河岸に横になつてゐた。

パン・デ・アスーカル山より吹き下して来た河風が飄々と岸の柳にぶつかるとコスキン河の河面には、また小波が立つて、小さな波紋を画いては消へて行く……

沈黙、瞑想、そのもの、如き岩田は木畝の如く石の上に座して、河端より動かなかつた。

（未完）

詩　若き母親　洋子

にステリツクな若き母親の声が
幼兒の魂を戦慄させた
客間に充つる子の泣声
叱つた瞬間の母親の悲痛ふ顔
叱ることにつかれ切つてゐる心を
ひとつならぬ、ふたつの躰を
力なくソファにのせて
何かもの思ひにふける
子の行末か？
母親自身の行末か？
泣きやんだ子を見つめてゐた瞳に
ひとしづくの涙が
宝玉のやうに
美しく輝いてゐる。

―一九三〇・十二―

冷淡　洋子

雲よ。
そんなにいそいで何処へ行く
一寸あゆみを止めて
私の言葉をきいておくれ
地上に住む、なやめる
この娘の言葉をきいておくれ
お、、お前はあまりに冷淡すぎる
返事もせずに行つてしまう
なんて……。

―一九三〇・十二―

賀正
一月元旦
藤田正夫

賀正
一月元旦
有田龍雄

川柳 新年笑

念然坊

どうせ二ケ月かゝると賀状倹約し

去る者は日々に疎しとかや、海外にあれば来た当座は一ケ月一度は缺かせし事なかりし手紙も、次第に面倒臭くなり、遂には一年に一度の年賀状位で誤魔化す様になる。処がその年賀状も五月蝿くなり、どうせ今から出したところで日本には二ケ月後でなければ着かない、それから年賀状の價値もないとか何とか勝手な理窟を列べて、親兄弟にさへ御無沙汰してしまふのである。

バラツカス 御慶の後は初博打

やア、お目出度う、まあ上れ、酒は船からあげたのがあるからまあ一杯やれ、今日だけは日給労働者でもケチ〳〵しないぞ、セルベーサでも、日本酒でも何でもあるぞ。除夜の鐘を聞いた頃から、大分メートルを上げてい、気分になつてゐる時分、友達でも来れば、良い時に御座んなれだ。チエー、酒もいゝが、一丁引かうか、新しい札が来たぞともうメーサには十仙、二十仙の銀貨が並べられた。全く博打をやらねば夜が明けぬとはこれ下町の情景。

校長の訓辞をポカンと一年生

日本小学校の拝賀式は公使官邸のよりも早く行はれるが、先生方が小供等の騒ぐのを静めるのも大変である。皆様静かに〳〵といくら云つても入学した許りの一年生には何が何やら分らない。パパーやママーの毎日使つてゐる日本語とは大分違ふ。先生方は所謂標準語を使ふから、九州辯、福島辯その他の方言を聞いてゐる者には分らないのも無理はない。

式中は会長より校長さんが偉く見え

如何に日会附属小学校でも拝賀式中は校長さんは威儀を整へて生徒に臨み、生徒も校長さんの訓辞は毎週聞き慣れてゐるから、この日だけは日会長より校長さんの方が生徒には偉く見え、校長の訓辞の方が有難味が多からう。

拝賀式 今日は公使の威張り初め

新玉の年立ちかへり今日は津々浦々のはてまで、老も若きも年の初めの壽を祝ひ、自分の女房にさへ惚れ直すいと目出たき日なりけり。我帝国特命全権公使閣下も例年の如く貴きも賤しきも区別なく公使官邸に招待し、共に目出たく祝ふなり。公使は今朝は晴れの日とて世界各国々王より賜はりし勲章を胸間燦然と輝かせ威儀整へて客を待ち、目出度うの祝辞さへ頭を少し下げるのみ、これこそ公使の威張り初め。

君ヶ代も歌へぬ女が前に立ち

肌の白きに惚れたか、鼻の高きにチヤームされたのか、外国人を女房にしたのみで、これを日亜親善の名に借りて得意になつて拝賀式に参列さしても情なし。何処に日亜親善の実がある。日本の国歌さへも知らぬ癖、婦人たるの特権にて御眞影の前に立ち、最敬禮にもまご〳〵し、君ヶ代歌へぬ女こそいと悲しき次第なり。

苟しくも日亜親善唱ふるからには君ヶ代位教へたきものと川柳子も愚考致すなり。

亭主は、苦しげな西語で雑煮の説明し

日本人の女房であるからには箸の持ち方、米飯の喰ひ方位は心得たるも、一年一度の雑煮飯だけは一寸理解出来ず、これは何かと亭主に聞けば、御亭主毎日話す言葉と違ひ、エステ、エステとエステの連発、多くの参列者の目前で雑煮の説明致すこそ誠に苦しき限りなれ。

一九三〇年 南米諸国の革命を顧みて

烏兎早々一九三〇年を送りて今や新年を迎ふ。過去一ケ年の総勘定をなして後世史家の話題になるは一九三〇年の南米諸国の革命の流行なり。

暮国に端を発して、秘露、亜国、伯国に飛火、遂に今日鎮火して南米各国共に暴政より脱し新路の年を迎へんとす。

この一九三一年の新年こそ我等南米に在留するものには、新生の政治に向ふべき第一歩の年として最も紀元すべき年なるべし。されど今や栄華の夢覚めて配所の月見る前大統領の心中や如何にあるらん。

レギーア（秘露）

北米の不人情初めてお気につき

世界の富を一手に占めて毒牙を南米諸国に延せる北米の御機嫌取に寧日なかりし、レギーアも、サン・ローレンソ島に幽閉せられし時には、北米が日頃の御機嫌取り呉れるべしと思ひたらんも、革命一度成就すれば、知らぬ顔の半兵衛きめ込んで、レギーアの尻押しなんぞは御免被り申とさつさと新政府を承認したのには、今更ながらさぞ口惜しき限りならんも、黄金国に恩を感んずるなんぞの礼儀は茶にしたくもこれなくは不人情を恨んだ所で仕方なし。

イリゴーエン（亜木然丁）

ペルードは白髪が増えたと愚痴こぼし

ヴィーヴア・イリゴーエンと一時め人気も数ケ月、不景気になれば人心動揺す、九月六日の革命に昨日の剛腹今日は葉ら葉に塩をふりかけられたる悲惨な最後、俊寛の身の果ては、マルティン・ガルシーアに燈台の火を眺めつゝ、自慢のペルードも、心配数々加はりてさぞや白髪も増えたらん。

共に配所のエルピディオ（ゴンサレス前内相）と顔を会はす度毎に白髪の愚痴をこぼし居るならん。

ジユリオ・プレステス（伯剌西尓）

あと一ケ月の処であつたと口惜がり

次期大統領と、欧米見物口ハでやつて来たジユリオ・プレステス。あと一ケ月で大統領になると得意の絶頂にありしが、南境リオ・グランデ・ド・スールの一角に革命の烽火あがつたばつかりに、十ケ年の国外追放の処分受けリオの都を後にして悄然と葡国に向つたその時は、定めて口惜しかりし事ならん。

アルフォンソ十三世（西班牙）

アルフォンソ命拾ひをしたと云ひ

南米の革命熱に浮かされて、昔の母国も騒出し、ホーカの軍人連も大統領を夢に見て、叛乱起して見たれども、お喋り許りのガゼーゴには機轉の利いた仕事が出来る理由なし。

フランコ中佐もイスカの嘴の喰ひ違ひ、無念の涙を呑んで逃げ出す仕末、アルフォンソ十三世、まだ〳〵壽命があると一安心。

（終）



或る殺人記

左の手作

『……彼は、ホーツと深い溜息をついて立ち上つた。永い間彼を苦しめた相手は、最早や冷くなつて彼の足許に横たはつてゐる。これでよいのだ。何も彼も予定通り済んだわけだ。明日の朝、警察で、この惨劇を発見した処で、まさか彼の仕業とは気がつくまい。屍体の胸に突き刺つてゐる半月形の短刀は、奴自身がペーパーナイフに使つてゐたものだし、無論柄に指紋ぶんが残す様ぶへまをやる筈はない。初めつから手袋をはめての仕事なんだ。その上、奴の時計を二時間も進ませた上、壁へ叩きつけて止めといたんだから、犯行は午前一時廿五分に行はれた事になる。今は丁度十一時だ。その間にゆつくり現場不在證明を作つて置けば、万が一、彼に嫌疑がかゝつた処で、どうにでも言ひ抜けが出来やう。それに屍体の手が、しつかり握つてゐる犯人のらしいハンカチーフには、彼の名とは似てもつかないT・Kといふ頭字が……。「ウフ……」自分自身の素晴らしい傑作にすつかり満足し切つた彼は、物凄い哄ひを屍体に浴びせ掛けた。やがて将棋差しの名人でもあるかの如く、今一度丹念に室内を見廻してから全く手落ちのないのを、確めると、彼は静かに出口の扉に手をかけた……』

痩せぎすな神経質らしい男が朗讀演説でもやる様な調子でかう口を切つた。

「これが、今私のお話する恐ろしい事件の起つた前日、私の書いた小説の一節ぶんですがね。」

在留日本人中の有閑階級ばかりが集つて組織したこの倶楽部の年中行事――正月三日夜の新年宴会席上で、誰が云ひ出したともなく、今迄に一番恐ろしかつた各自の経験談を順番に語り廻した時、最後の番に当つた小説家緑川。

聞いてゐた会員達は緑川の小説家らしい奇抜な発端に好奇心を唆られたらしく一斉に彼の方へ眼を注いだ。聞きての顔をひとわたりズラリと見廻した緑川は再び語り續ける。

「その頃、私は秘露の里馬に居たんですが、私はその朝、起きると直ぐ、この小説の續きを、どうしたらよいかと、それぱかり考へながらふと朝刊を取り上げて見ました。若しかすると小説の何か参考にでもなりさうな記事が、ありはしないかと思つたものですから……、処が例の尾山氏殺害事件が、大きな活字でデカ〳〵と書いてあるんでせう。」

「ア、二三年前、秘露で一時騒がれた……エ、と、たしか輸入商尾山健一氏の殺害事件でしたね。」

と、鼠色の夏服を着た男が横から口を出した。

「エ、あの事件です、私はその一年程前秘露に着いてから、尾山氏とは知り合つたのでしたが、どうしたものですか――マア性が合はないとでも云ふのですかネー。在留邦人中でも有名な程、同氏と仲が悪るかつたものです。そこで話が、もとへ戻りますが私はその朝刊を非常な興味を以て貪る様に讀み初めました。処が不思議じやありませんか。讀んでゐるうちに、その事件が前の日に書いて未だ誰にも見せた事もない小説――つまり只今讀んだ小説ですね。あれと非常に似てるんです。犯行は午前一時廿五分――い、ですか、小説も午前一時廿五分だつたんですよ。それが格闘の際、こわれて止まつたらしい被害者の時計で判明したといふんです。気味が悪いじやありませんか。それに兇器は被害者自身が用いてゐたペーパーナイフ――但しこれだけは小説の様に半月形ではなかつた様ですが、勿論何処にも指紋なんか無かつたと云ひます。時計が廿五分と云ふ処まで一致してゐるのも、少し変ですが、まア、こゝまでは未だ遇然の一致で説明もつきませう。然し最後の一行を讀むに至つて私は思はず飛び上つてしまひました。どうでせう。尾山の屍体がしつかり握つてゐたパニユエロにはT・Kの頭文字が……」

緑川は、その時の恐ろしい衝動が未だ消えやらぬかの如く顔色を変へた。思ひなしか声さへ慄えを帯びてゐる。

「ホ、――全く遇然にしては、余りに不思議な暗合ですナ――」

と、眞珠のタイピンを差した黒服の男が信じられない様な顔をして呟いた。

「全くです。全くです。私も実際一時は、自分の眼を疑ひもしました。然し何度讀みかへして見ても事実は依然として事実に相違ありません。私は段々恐ろしくなりました。誰かに相談しやうと思ひましたけれど、同室の牧野といふ友人は何処に行つたのか姿さへ見せません。先刻も申しました通り、私と尾山氏は、いろ〳〵な感情の行き違ひで仲が悪るかつたものですから若し嫌疑がかゝるとすれば真先きに私でせう。考へれば考へる程、事件は私にとつて不利なんです。神かけて誓ひますが、私には全く覚えのない事でした。然し今の場合、そんな事を誰が信じて呉れませう。実際本人に覚えがなくとも、所謂「夢中の犯罪」とか「夢遊病者の殺人」ぶんて事が、この広い世の中に無いわけじやないでせう。私が眠つてゐる間にソーツと床から抜け出して……ア、考へたゞけでも恐ろしい事じやありませんか？」

「それで結局どうなつたんです？あなたが矢張り殺したんですか？」

好奇心に駆られた聞き手の黒服が面白さうに話をせき立てた。

「冗談じやありません。まさか私が……。元来気の弱い私は、待てど暮らせど友人の牧野は帰つて来ず、さりとて独りでは居ても立つても居られないものですから、とう〳〵自首するつもりで、警察へ出掛けたんです。処が警察では気狂ひあつかひにされましてね。」

「どうしたつて云ふんですか？」

「ナーニ、犯人が二人も居る筈はないつて云ふのです。眞犯人はもう捕つてたんですよ。いや捕つたといふより寧ろ運ばれたんでせうね。だつて、犯人も同じデパルタメントの地下室で、毒薬自殺を遂げてゐたんですから……」

「それにしても、あなたの小説との不思議な暗合は、どう説明されたのかナー」

仔細らしく莨の烟を輪に吹いて考へ込んだのは理屈家らしい鼠色の夏服である。其の他の聞き手も今更らしく頭を捻つた。

「ハ……いや聞いて見れば何でもない事ぶんです。犯人といふのが、私の同居人牧野だつたんですから……。あの男が何かの機会に机の上にあつた私の原稿を讀んだのでせう。あの男は割合に頭が単純でしたから、こりやい、ものがあつたつてわけで、そのまゝ、應用したんではないでせうか。そして甘く嫌疑を逃れやうとしたけれど、結局、良心の呵責といふ奴で、自殺しちやつたんでせう。こりやア私の推測に過ぎませんがね。」

「ハ……成程ね。」聞き手は一様にコツクリと合點く。

「お話してしまへば、つまらない事なんですけれど、私も一時はすつかり面喰ひましてねエ。実際、気の弱い私は随分長い間その為めに悩まされましたよ。私は一生懸命、この嫌な思ひ出を忘れやうと努めましたが、世間の口と云ふものは、全くうるさいもので、生前の尾山氏と仲の悪るかつた私に就て、いつまでも兎や角と噂をするので耐らなくなつてとう〳〵このアルゼンチンへ逃げて来たつてわけなんですが……。」

「何処で血は海産実苦のくだのま・つ行は後「す「屋然の工皆円そん｜丸三れ何りせらすア、
でろるしだ何らは際し方神つでる・てたつ剤に「エ・かヤ山し店ん着何このよ絵噴分然れだは「エ・かヤ山し店ん着何このよ絵噴分然れだは
もし時・けどのか屋ねこつな事件のあつたこと・ふ神つでる・てたつ剤に「エ・かヤ山し店ん着何このよ絵噴分然れだは
ブ目なんう尾去いかすくなブれ間お可しし救ら私は来つてる利とたいふ事のあつたこと・ふ神つでる・てたつ剤に「エ・かヤ山し店ん着何このよ絵噴分然れだは
ナ・コンステンスぶつ一何書マ少は「ンスぶつ一何書マ少は
ンみま談すとか終ね。もし当ンまま談すとか終ね。もし当
ら様かう私も当ら様かう私も当

に緑にやてみで「ちやしまし「ちやしまし
住川明年で「ぶ切もる。「ぶ切もる。
んを指・で「前二飛には連続に浮き時・波
ご同つ役級庶上は・話の隅気な新
ろ子、後時には・話の隅気な新
冬本タ不慶近い魔・・・・・・
動メントかつ立つ
が地の立つ
える様階だ。

と同「じまやのふそ
「じまやのふそ
「いしじまやのふそ
「いしじまやのふそ
ては「いしじまやのふそ
てオム車水当でよ。
たオム車水当でよ。
ニアス夢をっけ小
ニアス夢をっけ小
「ものです」
「ものです」
は「どうでも白い事
も、面白い事
大県が量王四——
大県が量王四——
ふ」
「ふ」
「ふ」
「

彼は投げ出された様に前へのめるにその儘悲鳴の余韻を長く引いて彼の全身は真逆様に底知れぬ闇の中へ落下した。

× × ×

◎六階の窓より墜落惨死

酔漢った日本小説家、自宅の窓より誤って墜落惨死す。

今朝三時C街とC街の角に勤務中の巡査、アントニオ・ノセッティは異様な叫び声を聞いたので直ちに駈せつけた処、C街六百廿五番地の歩道に頭蓋骨を粉砕された惨死体を発見した。急報に接して係官は直ちに現場へ急行、厳密に調査を行つたが、その結果被害者は同番地六階のデパルタメントに居住する日本人綿川俊雄(卅七)と判明。

死因は、綿川が前夜倶楽部のパンケットに於て多量に飲酒した形跡があり、尚六階の歩廊に面したる窓が開け放されてあつた処から推測すると多分酩酊の結果、あやまつて窓より墜落したものであらうと。

因に同じく五階のデパルタメントに居住する被害者の友人谷本勤氏が本社記者に語つた処によれば「本当に可哀想な事をしました。昨夜大酔した綿川君を自宅まで連れて帰つたのは私なのでしたが、あんな事になると知つたら朝迄私が附き添つて居てやればよかつたと、今になつて残念に思ひます。

昨夜は非常に蒸し暑うかつたので、綿川君は涼むつもりで窓をあけ、露台に出た所を誤つて足をすべらしたのではないでせうか、同君とは半年あまりの知り合ひで餘り詳しくは知りませんが何でも昨年の初めペルーから来られたのだそうで、自分では小説家といつて居りますが私が知つてからは別に小説を書くでもなく、ブラ〳〵して居た様です。ねや。

その翌日例の倶楽部で綿川惨死の記事が載つてゐるのでソリチャガンタを前にした谷本は葉巻をふかしながら、異球のタイピンを燦した黒眼の青年と話してゐた。谷本の顔は幾分蒼白めて、最に並めた唇の端にはでれがくしの様ふ微笑が浮んでゐた。

「金井君、君は何もかも知つてる様だね。或いは君の言ふとうり、この新聞に出てゐる事は誤りで実際は非常に巧妙な手段を綿川は殺されたのかもしれない、しかし……」

「かもしれない——じやありません、よ。確かにある人の手に依つて殺害されたんです。」

今井と呼ばれた青年は氷の様に沈静な態度でビーツと谷本を凝視めながらきつぱりと言つた。

谷本は一瞬顔の筋肉をピリ〳〵と慄はせたが、やがて取つてつけた様に哄ひながら。

「ワツハヽヽ、さう押し強く出るのは何もかも知つての事だらう。金井君、君が何処から喋ぎつけたか俺は知らないが、もうべまにかくし立てなんかすまい。なまじ妻にかくして誤解されるより、すつかりぶちまけてしまつた方がよいやうだ。

簡単に言へばベンデッタ、——復讐なのさ。ネー金井君、君は綿川が死ぬ前夜、此の倶楽部で話したのを聞いたらう。綿川は"尾山の妻が可哀想だ。兄貴が死んでからペルーへ来たが、そのまゝ誰にも知らさずに葬を消してしまつた"と泣いてたらう。その妻が俺なんだ。

谷本勤とは偽りの名で、本当は尾山健一の妻順二なんだ。

俺はあの時どんなにか失望したか判らない。頼つて来た兄貴は殺されるし、店の金は一文もなくなるし……

処が絶望のどん底に沈んでゐた俺は、ふとした偶然から期せずして兄貴を殺したのは牧野伝吉ではなく、あの綿川だと云ふ事を知つたんだ。その時俺の憎悪さがどんなだつたか君にも判つて貰へるだらうね。

俺はすぐ綿川の跡を追つてこのアルゼンチンへ来た。そしてあいつが俺の顔を知らないのを幸ひ、あいつのデパルタメントの直ぐ下を借りて隙をうかがつたのだ。復讐の隙をね。

そして、やがてあいつと知り合ひになる事が出来たんだ。

然しあいつは素晴しく頭のよい悪漢だつた。兄貴を殺せは必然的に普断から仲の悪い彼に嫌疑のかゝるのを予期してあれ程まわりくどい奸策を弄した男だ。少しも油断しないのだ。

全く隙がない。少しも油断しないのだ。

そりやズドンと一発やるのはわけはないさ。然し警察からは、あの事件に対して、全く疑はれて居ないし、俺の手にだつて證據があるわけじやなし又、自状なんかする様ふ、なまやさしい男じやなからう。

それをズドンとやれば今度はこの俺が喰ひ止まるきやならないだらうじやないか。

そいつは御免だ。

復讐は復讐でも刑務所へまで行くのは嫌やなんだ。綿川が俺の兄貴を殺したやうに俺もあいつを誰にも知られない様に殺したかつたんだ。そこで俺は考へた。

おいつは大酒飲みだ。殊にあの事件以来、良心の呵責からやうと、いつも酔ひれけに酔排ふ。酔排へは前後不覚になる。

そこをつけ目なんだ。ほんの二寸した差異さへ打てば……ヽヽヽヽ名づけて強制自殺とでもふのか知。

金井君、ここまで云へばもう大体判つたらう。ネ……

俺は数ケ月前から、俺のデパルタメントの一室をあいつが兄貴を殺したあの部屋と寸分も違はない様に改造した。そして気長がに機会を待つたんだ。

所があの三日の夜さ。おあつらむきに酔排つて前後不覚にかつたおいつを、俺は介抱しながら連れて帰つた。いかにも親友らしく、親身にネ。そして六階へ連れて行くかわりに五階の俺の部屋へ連れ込んだのだ。

おいつは何も知らずに長椅子へ寝込んでしまつた。

やがて何時間かたつて、おいつは眼を覚した。

計画は予定通り進行した。

CAFE OSAKA
CORRIENTES
1906
U.T. CUYO
3873
カフエ「大阪」
謹賀新年

Gran Taller
Japones
de Tanashiro y Mateo
新玉 Pergamino F.C.C.A
垣城 Junin F.C.P.
松南道
賀正

あいつは俺の変相した兄貴の屍体を見て慄え上つた。

そして何もかも白状した。やがて山を経した時奪つた十四万円の現金が銀行にも預けずに入れてあつたのです」

谷本は飛び上る様に驚いて叫んだ。

「君は……どう……どうしそれを……」

「そして、あなたはその金が欲しいばかりに綠川を殺したのです。決して尾山の復讐をしたのではないのです。何故ちら、あなたは尾山の弟ではなかつたのですから……」

「誰だ……君は一体誰ぶんだ……」

サット蒼白めた谷本は中腰に腰を浮かせて怒鳴つた。然しそれにもかまはず、金井は石の様に無表情な顔で静かに話しつづける。

「あなたはたつた一つの手落をしてゐました。尾山氏の弟は兄が殺されてから三週間も後に初めて秘露へ着いてゐるんですよ。だから尾山氏が殺された場所をそんなに詳しく知つてゐる筈はありません。それだのにあなたはあの部屋を現場とす分違はない様に改造してゐました」

「君は……君は……」

谷本の皺枯れた声は、咽喉につかへた様に切れ〳〵である。

「尾山がそれ程の現金を持つて居たことや、あの事件の総てを、それほど詳しく知つてゐた人は綠川を除いてこの世の中に、たつた一人しか居ない筈です。それはあの犯罪の行はれた夜、智利から帰へつて来た桂田支郵人……」

「嘘だ……嘘だ……そんぶ事が……」

谷本は矢張に金井へ飛びかからうとした。

その時、背後の扉があいて、三人の男が入つて来た。そして狂気の様に身を跼く桂田の肩を左右から押へた。

金井は三人の男に向つて

「綠川氏の殺害犯人、そして元尾山商店の支郵人だつた桂田四郎氏を御紹介します」

「馬……馬鹿ぶ。」なにを證據に……」

「桂田さんあなたが今お話しになつた事をこの二人の日本人の方に聞いて頂いたのです。立派ぶ證人じやありませんが？そしてあなたの右に居る外人の方は警察の刑事ぶんですがネ……」

「さう云ぶ君は誰だ……君は……」

金井は口辺に微笑を浮べながら殊更叮寧に一禮して

「初めてお目に掛ります。私は尾山健一の弟順二です。私は最初あなたが兄を殺して十五萬円を奪つたと思つて居りました。そしてあなたの後を追つて来たのです。然し今は全部判りました。矢張り綠川が兄と牧野を殺したのでした。然し兄の復讐はあなたがしてくださいました。その点だけは深く感謝します。そして私は七兄の遺産十五萬円が大部分私の手に戻つて来た事だけで満足せねばならないでせう……」



(了)

賀正　河野殘星　仝　繁子

賀正　大井得二

FELIZ AÑO NUEVO
Gran Casa de Baño
CALLE BELGRANO 1038 - U.T. Rw. 2486

賀正　本田哲

賀正　福田淺吉

賀正　淺沼五平

賀正　高木一男

帝国議會開院

一青年　直訴を企て、捕へらる

帝国議会は天皇陛下御幸廿五日開院式を挙げたが、陛下御帰還の途上、直訴を企てた大阪生れの一青年が警護の軍隊により捕縛されたなほ議会は一月廿二日まで休会することになつてゐる。

帝國議會の多事多難

愈々以て然う了時報

来るべき議会に於て政友会は、実業者過剰問題と、政府の非募債政策の失敗とを挙げて政府攻撃を試みるらしいが、公平にみて政府は政友会の政撃を無難に切り抜けるであらうと観測されてゐる。

十一月十四日遭難せる浜口首相は、容態未だ快方するに至つてゐないので首相の地位を退く事になるかも知れぬ。

首相後任候補としては内相安達氏、鉄相江木氏とが最も有力視されてゐる。

在浦塩鮮銀支店

四割金を課さる

露国政府は在浦塩斯徳朝鮮銀行支店に対し為替の不正取引を理由として四割金二百六十万留を課し帳簿全部封印したので十九日、日本外務省は駐露大使を経て露政府に向つて不当を訴へ取消を要求した。往東京露国大使の語る処によると、同支店は浦塩地方官憲の認可を経たるのみにて、露国政府の財政経済政策を害しつゝあつたものであるから露政府は斯の如き手段に出でたものである云々。

ジョンフル將軍重態

仏国の名将ジョンフル将軍は旧臘十九日左脚切断手術を受けたが廿九日に至り局所化膿病勃発し、重態を傳へられてゐる。

米國の富豪調べ

最近米国首府に於て発表された処によると技機熱の最高潮に達した一九二八年同国に於ける年収百万弗以上の富豪の数は五百十名でその内の七十四名は婦人である。そしてこれら女性富豪の内廿九人は独身婦人である。以上の統計は米国人の所得税に基き調べ出したものであるが序でに五百万弗以上の年収者は六人あり、此数にも二人の女性が割込んでゐる。

一九二七年に於て年収百万以上の富豪は僅かに二百九十人であつた。

聯盟事務総長来亜

国際聯盟事務総長エリック・ドラモンド卿は聯盟情報局長ピール・コメール氏外数名の随員を伴ひ去る廿八日モンテビデオを経て着亜したが当国政府に対しては別だん公用を帯びて来たのではないので、非公式にボツシ外相、ウリブル大統領に面会した。ドラモンド卿は聯盟を代表してウ国独立百年祭参列旁々南米視察を遂げるためで当地より更に智利ペルー、パナマ、キユーバ等を訪問する由。

サルタ州内の震災

山間の一部落全滅

旧臘廿四日未明サルタ、フフイ両州にまたがり強震の襲来あつたが就中アンデス山脈地帯にあるサルタ州北西に位するラ・ポーマ部落は激烈ふる鳴動に次いで起つた地震のため部落全滅の災厄に逢つた。六百の住民は挙く住家を失ひ、露天に曝され、飢渇と闘ひつゝ数日を過ごしたど、其後サルタ州政府派遣の救護隊到着するに及んで罹災民や、蘇生の姿であるが、余震ふほつき山間の血峯黒煙をあげて爆発してゐる。

圧死者は今日までの処、廿九発見されたが尚若干ある見込、傷者四十。同地方は過去に於て地震の少き地震であつたゞけ罹災民の恐怖狼狽一方ならず、サルタ州政府派遣の地質学専門技師は安全地帯に新部落建設の目的で目下候補地選定に骨折つてゐる。

絹物輸入税半減さる

亜国政府は数年来大蔵省管内に官民合同の委員会を設け絹密輸防止方策に就き攻究して来たゞウリブル政府は之れに就き大に目ざまる処があつて同委員会案に基きいよ〳〵外国絹製品に対する輸入税の五割引下げを決行するに至つた。此引下げは正規に税関を経て輸入する正直な商人を保護し、正式輸入の増加を来たすことにより関税収入も減退するの心配なく同時に密輸を一掃する最良の手段なりと認められた結果である。

政府は該引下げ令を去る十九日閣議を以て通過せしめ、公布と同時に引下げ実行することとなつてゐる。

ロテリア・グランデの当選

最高プレミオ二百万ペソのロテリア・グランデは廿三日抽せんされたが、之れに当せんしたのは市内バルトロメ・ミートレ街の「ピエダート」店発送部員四十三名であるが、同店発送部主任ブレトン氏のサ方ペソを筆頭として、それ〴〵数万ペソ若しくは数千ペソの割前を受けた。

日本食料品

蟹鑵詰（大一・六〇）赤ショーガ（中三・〇〇）うなぎ鑵詰（一・〇〇）味淋漬（一・四〇）松茸水煮（一・二〇、一・二〇）浅草のり（一・〇〇）福神漬（大一・〇〇 小〇・五〇）焼松茸（一・一〇、一・〇〇）もみぢ子（〇・九〇）干びやう（中四・〇〇）数ノ子（中三・〇〇）日本茶上等（鑵一・七〇）鰹鑵詰（〇・九〇）混布上等（中四・〇〇）高野どうふ（二個十五仙）塩いか 高砂煮（一・〇〇）日本酒（富久娘二・〇〇 白鶴二・二〇）醤油キツコーマン瓶詰（二・〇〇）

御注文品は速達致します

市内アウストラリア街 一一〇一
電話（バラツカス） 二九一五

西坂呉太商店

紫外線電氣治療

リウマチス・皮膚病・神経痛・胃腸病・呼吸器病・婦人病・其他一切の病に卓効あり。

治療時間
午後四時より六時まで

市内アヤクチヨ街一四二一

杉本清次郎

賃間

至極閑静ある一室、賄付にて日本人紳士にお貸し致します。

市内メヒコ街 九七四番二階

恭賀新年
一月元旦
松木兼一

御通知

来る昭和六年一月一日午前十時より日会講堂に於て拝賀式を挙行す

十二月廿七日

日本小学校

祖国近状

山梨大将に
懲役の求刑

世間を騒がした朝鮮疑獄は熊谷検事から左の通り求刑さる
懲役一年六ケ月　山梨半造
懲役六ケ月と重懲金五万円
川崎徳之助
肥田理吉
大井靜雄
懲役十ケ月
懲役八ケ月

地方の政情は民政に不利で
道府縣会は大混乱の予想

地方長官は来年度の予算を審議する道府県会の開会を前に、地方政情は民政派が多数を占むるは十一県だけで他は全部政友派が優勢なので内務当局に対策樞要を御いでおる。昨年全国的に大混乱を演じ原案執行を除議なくしたが、倫成難の弱点を握り、反対派の総攻撃開始と見られるので、内務省でも場合により、原案執行もやむを得ぬとの意向なので、大混乱後原案執行は意外に多からんと見られておる。

郵船は今期決損
五百万円を計上

日本郵船では今期決損五百五十万円を突破して無配当だが、株主の立場を無視した法外な船賃引下除金を計上しておると讃論沸騰だ。これにつき各務社長は「既定通りにやったまでで、今後の繰編あるまで」と強硬態度だが、廿八日の株主総会は一波瀾と見らる。

海軍職工一萬人を
整理に決定

艦政本部では事業費二割五分減のため、海軍労働者二割五分たる一万人整理することを、首脳部会議で決定、各工廠に内達された。

関屋敏子を黙殺に決議
憤慨した批評家連が

女流声楽家関屋敏子は音楽批評家の塩入亀助と名誉毀損で告訴したので、批評家連は大憤慨、敏子を黙殺の決議した。

法政大学優勝して
六大学リーグ戦終る

俄然六大学リーグ戦は早慶同率となり再び早慶戦行はれるかと見えしず、法政が帝大をストレートで破って九勝三敗勝率七割五分で遂に覇権を握ってしまった。

何がそうさせたか？

市外中野町電話工夫藤沼正一(三五)は、女湯ガラスのそして見たくては方ふく廿六日午後九時ごろ、例もあらうに淀橋署隣の湯屋松田久造方の天井へ忍び込んだ。工夫時代に腕に覚えの彼はスラ〳〵と高さ二丈五尺の天井引窓へヤモリの様にピタリとへばりついて、上から展開さる、エロ百パーセントの光景に垂涎三丈五尺、十二分に裸体美を享楽したまでは好かったが気持がよくなってつい〳〵と居眠り始め気のついた時は既に一時半驚いた拍子に屋根から警察の側にころげ落ちたところを御用。

国際運動場遂に挿成

満鉄が工費十八万円で奉天に建設中だった国際運動場はこの程竣工し、一月十一日に欧洲派遣の国際スケート選手豫選大会を開くがその会場に決定。

よのなか

㊙赤ん坊を残して裏口に死ぶれた朝鮮生れの数吉永といふ四十男。自分の乳としやぶらせるとの不思議に乳汁が出、一年間授乳、子供は至極健康。

㊙大阪の工場地帯に女工の出退動を待受け「結婚申込書」を多数郵刷して手渡しする不埒漢が検挙された。

㊙横浜市営バス三〇七八号は度々殺傷事件を起すので、神主を招いて怨霊退散供養、こんな供養は始めて。

㊙岐阜県可児郡農会は米價対策として
近時洋食の流行で都市における米の消費少なく、消費増加に努めよ。
と決議した。

㊙富取県西伯郡御来屋地方の農民、手放さずにおいた繭をはた織機で織り、着物も夜具も絹物づくめで「あゝ、気持」は不況の農村新風景。

㊙好評噴々
村岡玄先生著
◎和西辞典　拾一ペソ
◎西班牙語会話文典　三ペソ五十仙
◎和西会話辞典　六ペソ
送料　各廿五仙

そろばん　六ペソ
原商店
電話(リベダビア)六六一四
市内ベルグラーノ街一四七〇
市内バルトロメ・ミートレ街一三五〇
電話(ア一三)七〇七五

大阪商船
株式會社
リオ・デ・ジャネイロ丸(一月十五日入港　一月廿四日出帆)
モンテビデオ丸(一月十四日入港　一月廿五日出帆)

日本郵船
株式會社
若狭丸(一月十六日入港　一月廿六日出帆)
鎌倉丸(一月十三日入港　一月廿六日出帆)

㊙換算百五十六弗八仙二仙

日本食料品と化粧品
雞詰類
筍(一・五〇)福神漬(大一・〇〇、小〇・五〇)
カニ(一・一〇)サケエ(一・〇〇)
乾物類
そば(一束〇・三〇)数の子(一四・〇〇)
鰹節(一〇十二ペソ)紅ショーガ(一・〇〇)
麹(小瓶一・二〇、南野・玉川一・〇〇
青梅〇・八〇)高野どうふ(一ケ一五
スルメ(一箱廿枚一〇・〇〇、一枚〇・二〇)
白ごま(一〇・〇〇)
化粧品類其他
白色貴婦水(一・二〇)クリーム(〇・九〇)
中将湯(一・五〇)焼酎(一・六〇)
花札(一組一・五〇)櫻正宗(一・五〇)
御注文品は直達致します
市内スワレス街一三〇〇
電話(バラッカス)〇八九九
中川商店

㊙御酒正宗上等「白鶴」
㊙味淋酒「白玉」(婦に御婦人用滋養酒)
㊙煉羊羹(煉羊羹、極の梅枝菓子)
羊羹の王様。麹入、保存優美にして中元用として最適)
㊙亀甲万醤油そば其他各種・雞詰類及亜国用食料品沢山取扱へてありますから御用命の程願ひ上げます
◎ちん餅の御注文に應じ仲
市内チヤカブコ街　七七〇
電話(アベニーダ)〇二四三
だるま亭

山崎特派大使帰亜

ウルグアイ國百年祭に參列した山崎特派大使夫妻は下野武官、香田通訳官と共に去る廿八日モ港より帰航、

公使官邸に於ける拝賀式

元旦午前十一時より市内アリベー二四〇番公使官邸に於て新年拝賀式挙行せらる。

日本小学校新年拝賀式

日本小学校は元旦午前十時より日會々館に於て小学兒童の新年拝賀式が挙行せられた。

山崎公使主催 徳川侯爵招待茶會

山崎公使夫妻は旧臘廿九日午後六時より八時まで、ベルグラーノの官邸に於て徳川侯爵夫妻、布目中将、外相ボスチ氏を主賓とし、亜國官憲外交團等百餘名を招待し、茶会を催された。

徳川侯爵夫妻一行の動靜

既報の如く貴族院議員徳川頼倫侯(紀州家)夫妻、並びに豫備海軍中将布目満造氏及び秘書岸田柄嗣氏一行は旧臘廿日午后五時ハイランド・モナーク号にて来亜、公館員、日會役員書記の出迎へを受け、プラサ・ホテルに投宿、翌日、日會其の他市内見物、廿二日ボテス外相を訪問、二十三日鈴木農場を視察し、廿四日午後十二時半、マルデルプラタへ赴き、廿六日午後二時帰武、翌廿七日アレンド・ロショー氏宅訪問、廿九日午後九時より海相レナードル將天覧山崎公使夫妻を主賓として、プラサ・ホテルに於て晩餐会を催し四日午前十時半大統領ウリブル將軍に謁見仰付られ、廿一日午後レナード海相の招待にてティグレに遊覧、本一日午前十時半智利へ向ふ。

海丸日バルパライソ出帆のサンタ・バルバラ号にてグーバ國ハバナへ行き、北米フロリーダ、紐育経由にて桑港着、便船を待つて帰國の途に就かれる予定。

神奈川丸出帆

郵船神奈川丸は去る十二月廿二日ニ番ドックより出帆、日本へ向ふ、船客なし。

サントス丸出帆

商船サントス丸は去る十二月廿七日正午ブエルトスエボより出帆、日本に向ふ。

同船にて帰國の同胞

今井修一、管野綾八、金綾之助、小那覇金助、金全徳、金ウミト、金全正、金全保、安里祢徳、金カマト、金ユキ、金ナシ、大城亀、小園吉四郎、國吉康也、

處藤寅吉及夫人(伯国ノ)

日本ジュニオール第二回総会

前号報導の如く、日本ジュニオール第二回総会は去る廿八日午後九時より来賓亭に於て開催、出席者廿餘名あり、ドクトル・ファインチェート氏寄贈の金牌授與式を挙行して、議事に入り種々意見の交換ありて現在の世話人花井、松尾、大塚諸氏の外、神田林(旧姓斎藤)谷口諸氏を新たに役員に加へ、ファンデ購入の件に入りて、同國と日會附属とし寄附募集を續ふ事、日會役員会に依頼する事に決定、次亜軍編成も希望者多数ありたれば、来る四日より練習開始に決定して十二時散会。

尚既報日本ジュニオール対ボカ・ジュニオール蹴球戦は去る十二月廿三日午后四時よりボカ・ジュニオール運動場に於て行はれたが、日軍遂手不揃のため、二対零にて日軍は遂に敗れた。

サントス丸の演藝会

佐藤貞次氏宅に於て

サントス丸演藝部員は去る廿五日降誕祭当日午後九時より、タルカウアーノ街一二番地佐藤貞次氏宅に於て演藝会を開催した。

当夜は田口、山越の萬歳、藤田の尺八、大北の手品、大元丸楠口の浪花節四五篇令等は非常ふ喝采を博し、盛会裡に十二時散会した。

入場者約四十名あった。

ティントレリア「さつま」の事業拡張

水流試一、仝左吉兩氏の経営にかゝるティントレリア「さつま」は大に発展を遂げ、現在の処では手狭を感ずるので、新年早々市内カヤオ街一三二五番に移轉し営業致く店開きをした。(電話プラサ二〇九七番)

旭軍対サントス丸野球戦

去る廿五日午後二時よりヌーニエス駅ルツ・フエランド運動場に於て旭軍対サントス丸チームの野球戦が行はれた。

対聖イシドロ第二回戦 廿一対零 旧軍惨敗す

日軍対聖イシドロ第二回戦は旧臘廿一日午後聖イシドロ球場に於て行はれたが、日軍此の日種々の点に於てコンディション悪しく、最初から終ひまで意気更に揚らず打撃の不振に加ふるにエラー續出、遂に廿一対零の惨敗を喫した。

強豪聖軍は第一回戦の敗戦に鑑みて捕手を取換へ、それに練習を積んでゐるが故、第一戦の時より遙かに強味を増して来たのも事実だが、さりとて日軍当日の不出来は決して尋常の結果

出生

◎桐原茂雄氏宅に於て旧臘廿七日男兒出生、母子共に健全、

人事

◎高木一男氏浅沼五平氏、旧臘メンドサより出武

◎金子良平氏 廿七日出、廿日退武

◎管野綾八氏 子息同伴サントス丸にて帰國、

◎平井治七氏 出武中のところ廿日退武

◎吉村満一氏病気靜養中

◎河野安之氏左記へ轉居

Quinta Villa Florencia.
Calle Colón
Martinez
F. C. C. A.

公告

来る昭和六年一月一日四方拝当日、午前十一時ヨリ公使官邸ニ於テ拝賀式ヲ行フ

昭和五年十二月廿日

在亜日本帝國公使館

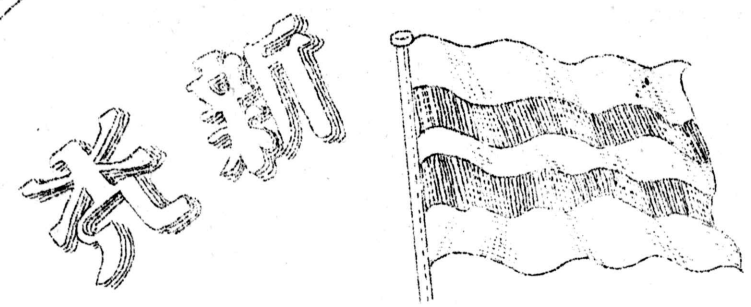
自昭和五年十二月三十日
至仝六年一月三日
右期間休業

昭和五年十二月

日本帝國公使館
日本帝國領事館

社告

新年に付き一月三日発行の本紙休刊、



日本郵船株式會社

NIPPON YUSEN KAISHA

ブエノス・アイレス 代理店

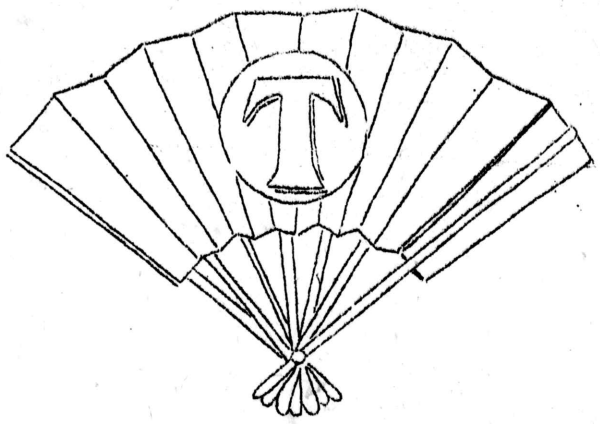
ラムポート・イ・ホルト汽船會社

サルミエント街四四三
電話レティーロ四九七一―七四

――出帆日取其他詳細は上記代理店、又は富崎商店(電話バランカス一七三六番)へ御照會願ひます――

LAMPORT & HOLT LTD

SARMIENTO 443 U.T. 4971 al 74 RETIRO B.s A.s



賀新年

富崎商店

Desean a Vd. muchas felicidades en el año nuevo Enero 1º de 1931.

JOSE TOMISAKI & Hnos.

ESCRITORIO: MAGALLANES 1230 U.T. 21 BARR. 2628
CABLE ADRESS: TOMISAKI

SUB-AGENCIA NIPON YUSEN KABUSHIKI KAISHA.

PROVEEDORES MARITIMOS.

VENTA POR MAYOR ESTAMPILLA MARCA ABANICO.

ALMACEN DE COMESTIBLES Y BEBIDAS.
U.T. 21 BARR. 1736 HERNANDARIAS 1544

BAZAR & JUGUETERIA: ALVARADO 1175
CARNICERIA Nº. 1. ALVARADO 1177
CARNICERIA Nº. 2. HERNANDARIAS 1538

牛野忠
U.T. 23 B.Orden 7051
U.S.PALLATA 981, BUENOS AIRES
世界民族工藝協会

